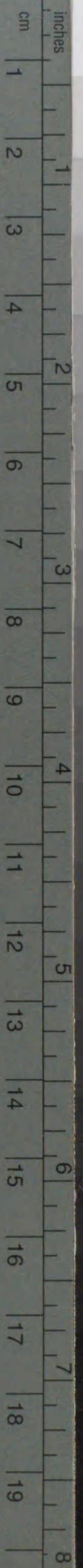


# Kodak Gray Scale



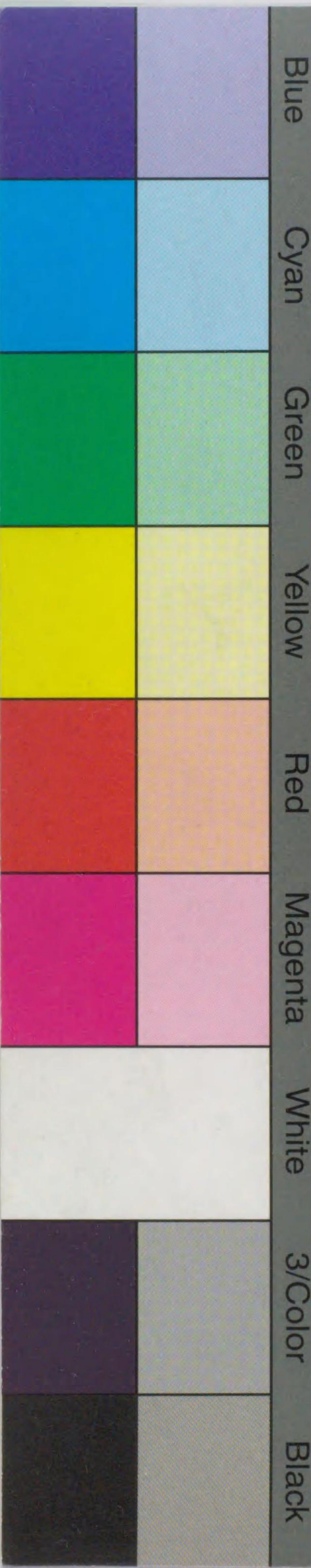
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



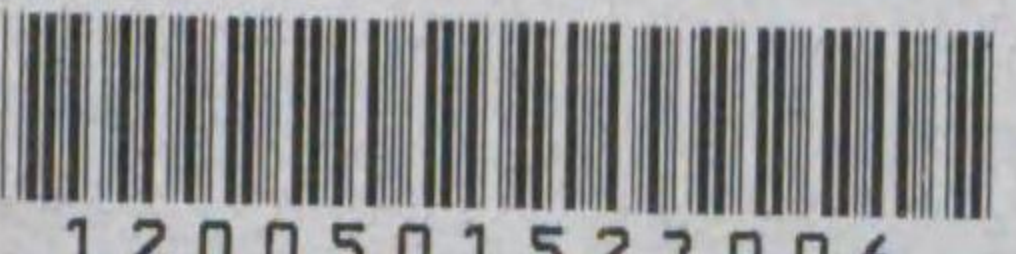
# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



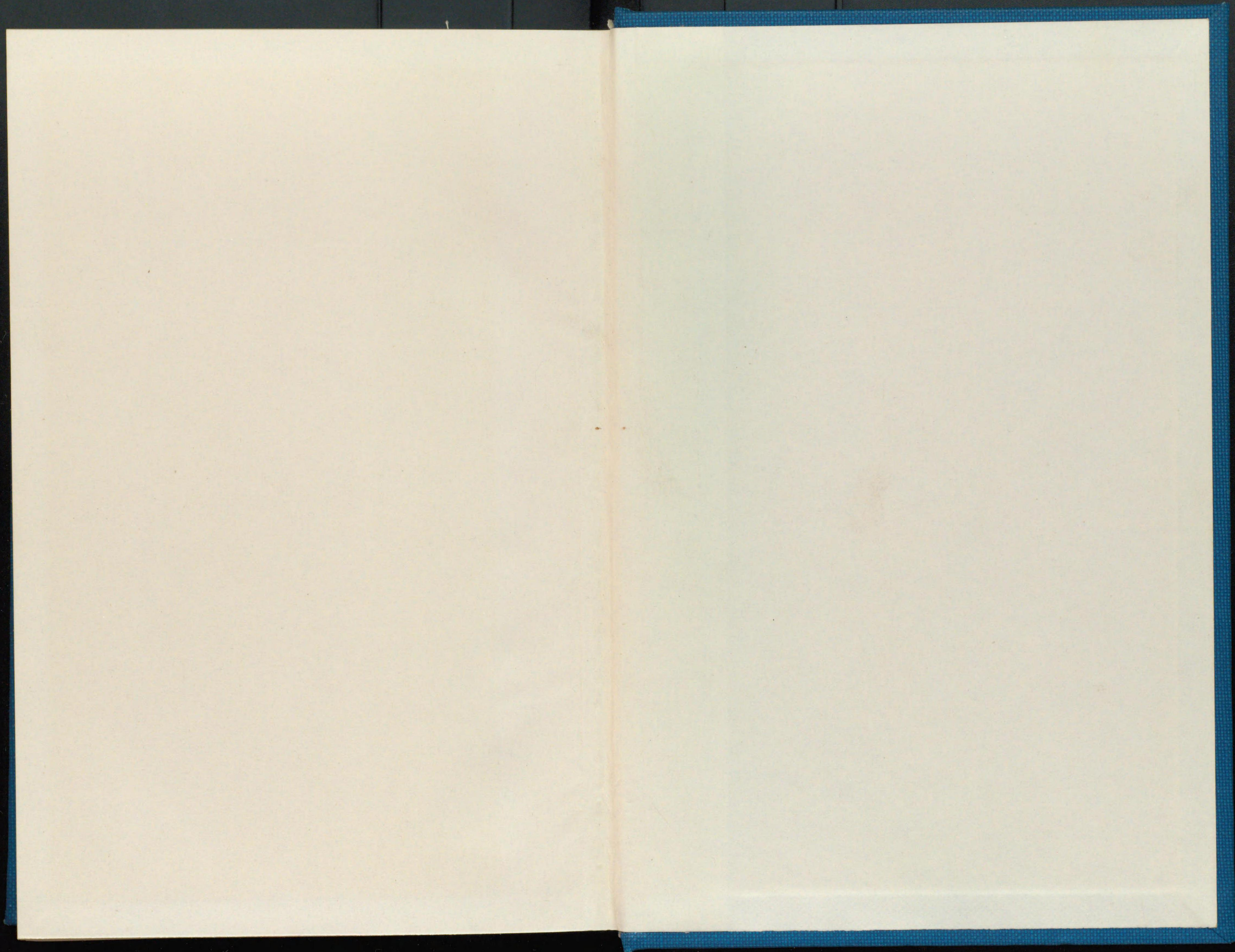
594  
19

594-79

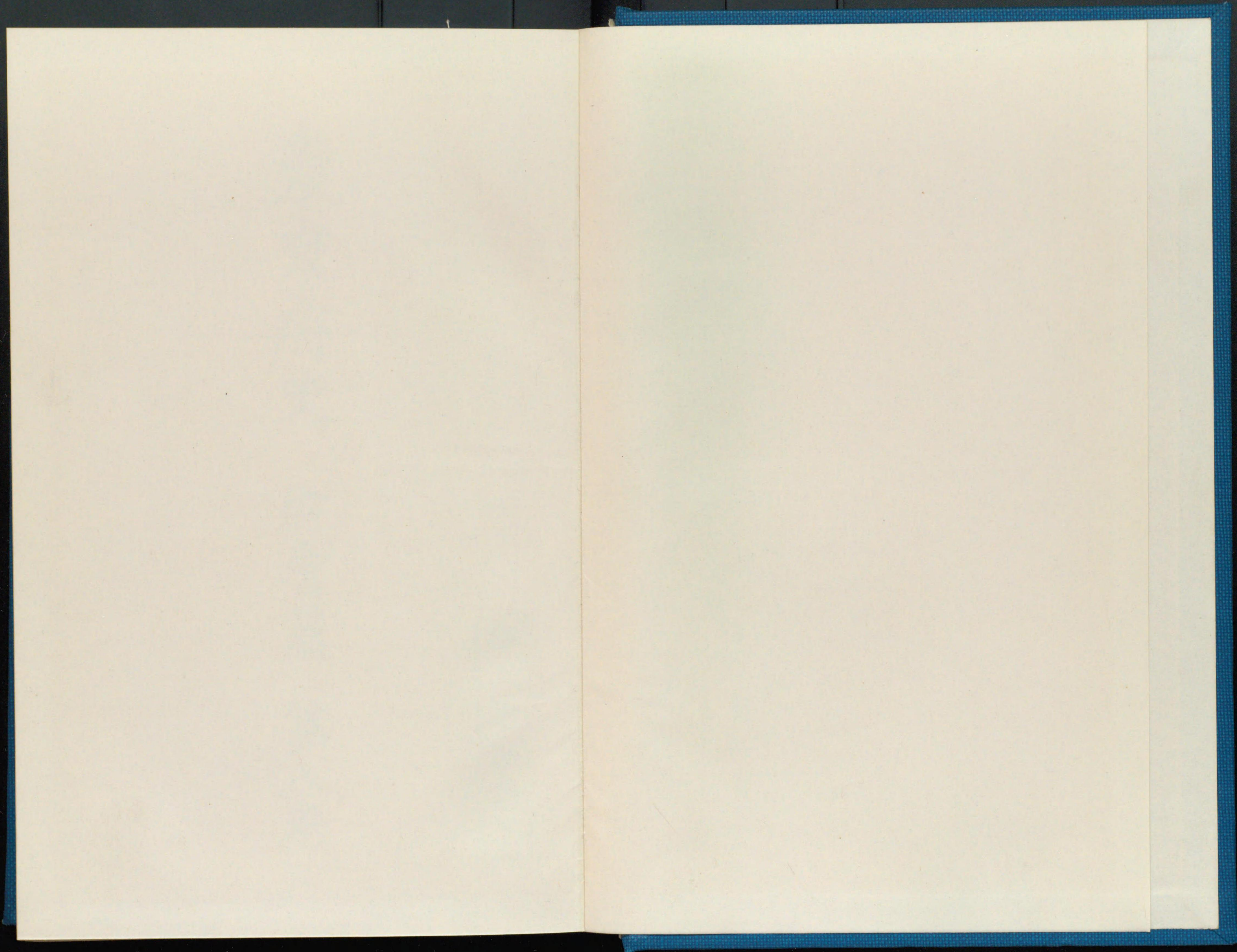


1200501527006













東京府史

府會篇

第八卷



發行所寄贈本



## 凡例

一 第五章府會の行動其の二は、明治三十二年七月改正府縣制施行以來昭和三年十月末日に至る迄、府會市部會郡部會に於ける議事の梗概を年次によつて節に分ち、更に開會の順序を逐つて記載するものであるが、大正十四年より昭和三年に至る四箇年分を第八卷として發行したのである。

一 重要なる府會議員協議會に關しては、便宜其の梗概を適所に掲げた。

一 各會議の記述は、之を三つに分ち、第一に開會閉會の年月日、會議日數、知事の開會並に閉會の辭、議事參與員の官氏名、特筆事項等を記し、第二に議案、諮問案、決算報告、建議案等の題目を掲げ、各其の下に議決の結果を記して豫め成果を知るに便とし、第三に議決摘要として附議案件の内容に涉つて記載することとした。

一本府會は三部制の議會であるため、開會閉會若しくは議事參與員の通知其の他共通の事項等は總て府會に於て行はれ、市部會郡部會では之を省略するのが通例であつたから、自然各部會には其の事項を缺いてゐる。

一 知事の開會の辭は、通常會と臨時會とを問はず、附議事件の内容、議案編成の方針、



招集の理由等を知るために必要の資料であるから、可成之を掲載した。

一 議案及諮問案は原案を掲げ、其の可決されたもの、外は、成議を挿入し、修正其の他の理由を付して議決の精神を明にした。しかし、見積を過當として削減し、又は前年度の額に依つて修正し、或は他の修正の結果に伴つたもの等は、大部分之を省略した。

一 収入豫算は、支出若くは課率の修正變更に伴ひ修正することが多いので、特別の場合を除く外は修正の理由を省略した。

一 府税賦課の方法及營業稅雜種稅課目課額は、別章に記載するから、新に發案となつた事項及會議に於て修正を加へた事項のみを掲げることにした。

一 豫算中府税は、其の國稅の附加稅たると、獨立の府税たるとを問はず、課稅標準の記載は省略し、課率のみを參考として附記した。

一 建議及決議は、別章に其の重要なるもの、全文を掲げるから、こゝには其の大意を記載するに止めた。

一 決算報告を始めとし、豫算の各科目は舉げて調査委員に附託されるが、委員に於て廢棄、修正、附帶決議其の他特別の決議をした場合を除き、單に承認すべし、又は

原案を以て二讀會に付すべし、若くは原案を可決すべしと決議報告した場合は一々之を記載しないことにした。

一 特別會計の豫算は、從來其の内容に涉つて掲載したが、明治三十九年からは、議案番號豫算名稱議決の結果のみを掲げることにした。其の理由は性質が單純で、其の内容たる款項の名稱等あまり變更がなく、たゞ、豫算金額のみが毎年度多少の異動があるに過ぎないので、府會に於ては、從來多くは讀會を省略して議決するのを例としたが、三十九年からは更に一步を進めて各特別會計豫算の總てを一括して議題とし、且讀會を省略して議決するのが例となつた。議會の態度が斯様であるから、煩を避けて省略することゝしたものである。しかし、特殊のものは勿論新に豫算を設定し若くは追加、更正した場合又は議會で修正のあつたときは内容に涉つて掲ぐることにした。



# 東京府史 府會篇

## 大目次

第一章 東京府の沿革……………	第一卷
第一節 東京府の設置……………	第一卷
第二節 東京府の位置面積及管轄……………	第一卷
第三節 管轄地の沿革……………	第一卷
第二章 府會の組織……………	第一卷
第一節 議員選舉區及定數……………	第一卷
第二節 議員選舉及其の結果……………	第一卷
第三節 議員在職年數……………	第一卷
第四節 議員の異動……………	第一卷
第五節 議長の選舉及其の結果……………	第一卷



第六節 議長の在職年數……………第一卷  
 第七節 議長の異動……………第一卷

第三章 常置委員會・參事會の組織……………第一卷

第一節 常置委員・參事會員の定數……………第一卷  
 第二節 常置委員・名譽職・參事會員の選舉及其の結果……………第一卷  
 第三節 常置委員・參事會員の在職年數……………第一卷  
 第四節 常置委員・參事會員の異動……………第一卷

第四章 府會の行動 其の一(府縣會規則時代)……………第二卷

第一節 開會及閉會……………第二卷  
 第二節 明治十二年の府會……………第二卷  
 第三節 明治十三年の府會……………第二卷  
 第四節 明治十四年の府會……………第二卷  
 第五節 明治十五年の府會……………第二卷  
 第六節 明治十六年の府會……………第二卷

第七節 明治十七年の府會……………第二卷  
 第八節 明治十八年の府會……………第二卷  
 第九節 明治十九年の府會……………第二卷  
 第十節 明治二十年の府會……………第二卷  
 第十一節 明治二十一年の府會……………第二卷  
 第十二節 明治二十二年の府會……………第二卷  
 第十三節 明治二十三年の府會……………第三卷  
 第十四節 明治二十四年の府會……………第三卷  
 第十五節 明治二十五年の府會……………第三卷  
 第十六節 明治二十六年の府會……………第三卷  
 第十七節 明治二十七年の府會……………第三卷  
 第十八節 明治二十八年の府會……………第三卷  
 第十九節 明治二十九年の府會……………第三卷  
 第二十節 明治三十年の府會……………第三卷  
 第二十一節 明治三十一年の府會……………第三卷



第二十二節 明治三十二年の府會……………第三卷

第五章 府會の行動 其の二(府縣制時代)……………第四卷

第一節 開會及閉會……………第四卷

第二節 明治三十二年の府會……………第四卷

第三節 明治三十三年の府會……………第四卷

第四節 明治三十四年の府會……………第四卷

第五節 明治三十五年の府會……………第四卷

第六節 明治三十六年の府會……………第四卷

第七節 明治三十七年の府會……………第四卷

第八節 明治三十八年の府會……………第四卷

第九節 明治三十九年の府會……………第四卷

第十節 明治四十年の府會……………第五卷

第十一節 明治四十一年の府會……………第五卷

第十二節 明治四十二年の府會……………第五卷

第十三節 明治四十三年の府會……………第五卷

第十四節 明治四十四年の府會……………第五卷

第十五節 明治四十五年 大正元年の府會……………第五卷

第十六節 大正二年の府會……………第五卷

第十七節 大正三年の府會……………第五卷

第十八節 大正四年の府會……………第六卷

第十九節 大正五年の府會……………第六卷

第二十節 大正六年の府會……………第六卷

第二十一節 大正七年の府會……………第六卷

第二十二節 大正八年の府會……………第六卷

第二十三節 大正九年の府會……………第七卷

第二十四節 大正十年の府會……………第七卷

第二十五節 大正十一年の府會……………第七卷

第二十六節 大正十二年の府會……………第七卷

第二十七節 大正十三年の府會……………第七卷



第二十八節 大正十四年の府會……………第八卷

第二十九節 大正<sup>十五</sup>年<sup>元</sup>の府會……………第八卷

第三十節 昭和二年の府會……………第八卷

第三十一節 昭和三年の府會……………第八卷

# 東京府史 府會篇 第八卷

## 目次

第五章 府會の行動 其の二(府縣制時代)

第二十八節 大正十四年の府會……………一

第一回 臨時府會……………一

第一回 臨時市部會……………九

第一回 臨時郡部會……………一一

府會議員協議會……………一三

第二回 臨時府會……………一五

第二回 臨時市部會……………三〇

第二回 臨時郡部會……………三三

府會議員協議會……………三七

通常府會……………四二



通常市部會……………一二六  
通常郡部會……………一五〇

第二十九節 大正十五年の府會

昭和元

……………二二五

回第一 臨時府會……………二二五

回第一 臨時市部會……………二三三

回第一 臨時郡部會……………二三五

回第二 臨時市部會……………二四三

回第二 臨時郡部會……………二四六

通常府會……………二四七

通常市部會……………三二九

通常郡部會……………三六〇

第三十節 昭和二年の府會

……………四六八

回第一 臨時府會……………四六八

回第一 臨時市部會……………四七五

回第一 臨時郡部會……………四七六

回第二 臨時府會……………四七八

回第二 臨時市部會……………四九五

回第二 臨時郡部會……………四九八

府會議員協議會……………五〇三

通常府會……………五〇六

通常市部會……………六三九

通常郡部會……………六六四

府會議員協議會……………七二三

市部會議員協議會……………七二四

第三十一節 昭和三年の府會

……………七二四

回第一 臨時府會……………七二四

回第一 臨時市部會……………七三〇

回第一 臨時郡部會……………七三二

回第二 臨時府會……………七三三

回第二 臨時市部會……………七三五

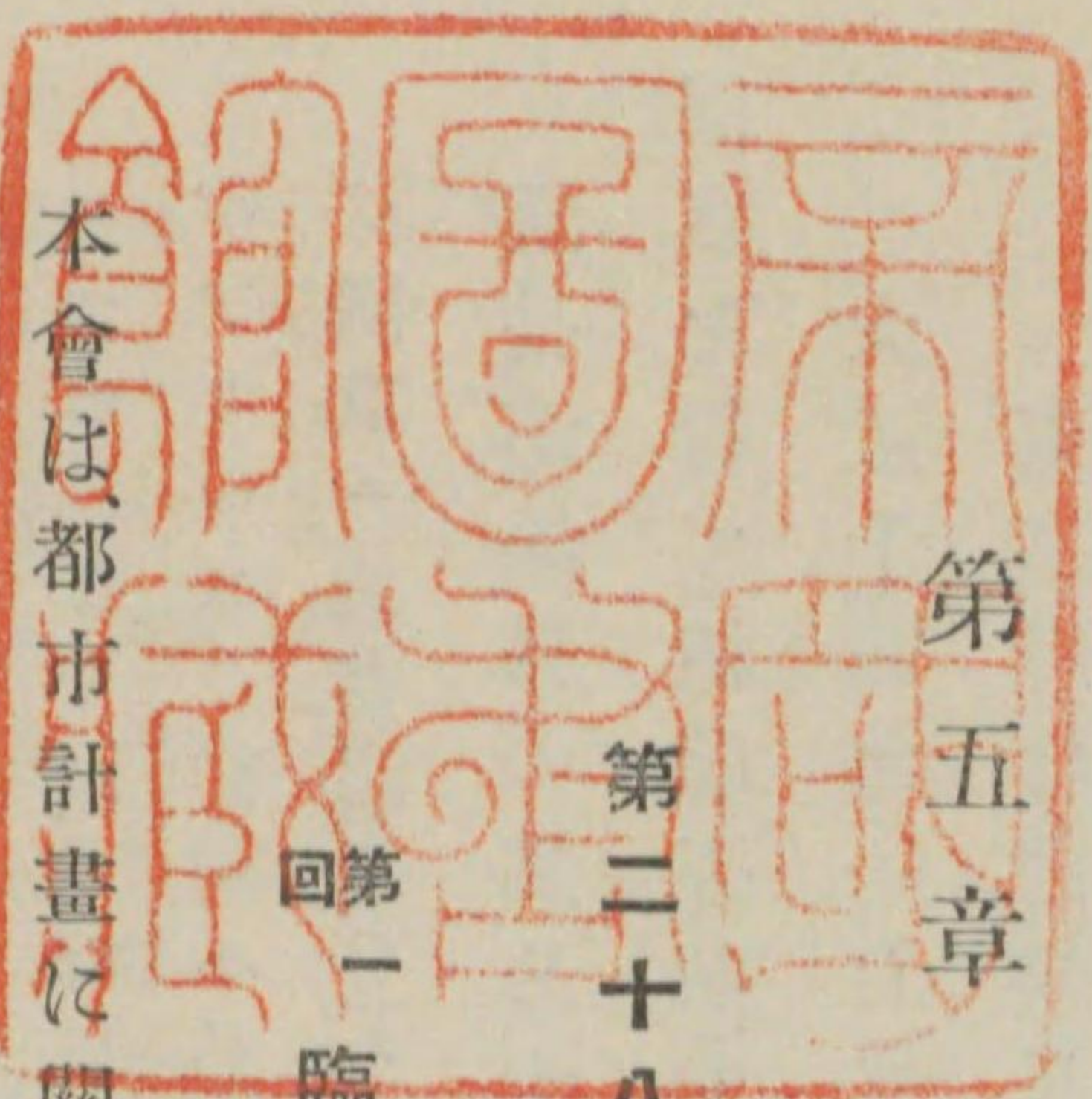


第二臨時郡部會	七三七
府會議員協議會	七三九
第三臨時府會	七四二
第三臨時市部會	七四八
第三臨時郡部會	七四九
通常府會	七五一
通常市部會	八四五
通常郡部會	八七〇
關係法令拔萃	九一一

# 東京府史 府會篇

## 府會の行動 其の二（府縣制時代）

### 第二十八節 大正十四年の府會



第一臨時府會

本會は都市計畫に關する道路改修費追加豫算議定竝府會議長選舉の爲め招集せられたもので、大正十四年一月三十日午後三時四十五分に開會し、翌三十一日午後五時十五分議事終了閉會した。

開會の當初に、知事宇佐美勝夫は、次の開會の辭を述べた。

「本日ヲ以テ、茲ニ大正十四年第一回臨時府會市部會郡部會ヲ開會イタシマス。本會ニ提出シマシタ議案ハ、道路改修費及警察費ノ大正十三年度追加豫算、之ニ附隨スル議案竝ニ府會議長選舉ノ案件デアリマス。道路改修費ハ都市計畫ニ屬シマス環狀線放射線ノ道路改修費本年度支出額ノ追加豫算デアリマシテ、震災當時ニアリマシテ、本府財政ノ關係上已ムヲ



得ズ繼續年期ヲ延長シテ五箇年ヲ繰延ベ、本年度ニ於テハ、御承知ノ如ク復興事業トシテ政  
府ノ貸付金及補助金、之ヲ以テ支辨イタシマス百五拾萬圓ノ外ニ、都市計畫特別稅其ノ他ヲ  
財源トシテ、僅カニ九拾參萬圓ヲ計上シタノデアリマス。併シ本工事ハ、事業ノ性質上財源  
ノ許ス限リニ於キマシテ、成ルベク速ニ之ヲ實行シタイ希望ヲ有ツテ居ルノデアリマス。  
用地ノ買收ナリ工事實施モ相當進捗ヲ致シマシタカラ、繼續年期ノ最終ノ大正二十三年度  
支出額カラ、五拾萬圓ヲ繰上ゲテ十三年度ニ追加豫算ヲ致シ、本年度ニ於テ是ダケノ仕事ヲ  
行ハントスル爲ニ、此案ヲ提出シタ次第デ御座イマス。又警察費ハ恩給法ノ改正ノ結果ト  
致シマシテ、警部補巡查給助支給額増加ノ爲ニ既定豫算ニ不足ヲ生ジマスカラ、連帶經濟ニ  
於テ參萬參千圓、市部經濟ニ於テ拾五萬八千圓ノ追加ヲ必要トスルノデ、此案ヲ提出シタノ  
デアリマス。詳細ハ必要ニ應ジマシテ、隨時本官又ハ參與員カラ説明イタシマスカラ、ドウ  
ゾ慎重ニ御審議アラムコトヲ切望イタシマス(大正十四年府會速記録ニ)

議長が缺員の爲め、大木副議長が議長の職務を執り、次の事項を報告し、且會議の  
同意を得て、伊藤平藏、右川慶治を會議録署名議員に選定した。

大正十四年一月二十八日

東京府知事 宇佐美勝夫

東京府會副議長 大木金兵衛殿

本日左記ノ者ニ對シ大正十四年第一回臨時府會、市部會、郡部會ノ議事ニ參與ヲ  
相命候條此段及通知候也

記

東京府書記官	百濟文輔	地方事務官	正木虎藏
地方事務官	土岐銀次郎	地方技師	伴宜
道路主事	南孝夫	東京府屬	中村芳貞
東京府屬	平野綠	東京府屬	茂木一二

秘甲第六號ノ二

警視廳書記官 平田紀一 警視廳書記官 川淵洽馬

兼警視廳警部 兼警視廳屬 淺田福一郎

右ハ府縣制第四十九號ニ依リ大正十四年第一回臨時府會、市部會、郡部會ノ議事  
ニ參與ヲ命シ候ニ付此段及通知候也

大正十四年一月二十七日

警視總監 太田政弘

東京府會副議長 大木金兵衛殿

一月三十日の會議の最終に、大木副議長は、府會議長の選舉投票を行ひ、中野勇治  
郎が當選した。

この會議に於ては、一部議員から開議の劈頭より、難詰的質問が發せられた。次



に其の重なる事項の概要を掲げる。

一 臨時會招集の理由に關する件

議員小俣政一は、知事は開會の辭に於て、この臨時會招集の理由を述べられたが、自分は其の招集理由の眞意が那邊に存するか疑はざるを得ない。先づ、府會議長の選舉であるが、議長選舉だけの爲めに臨時會を開いた先例が無いではないが、其の當時大分輿論の非難もあつたので、これは惡例と言はなければならぬ。現に昨十三年の通常府會は、議長が病氣缺席の爲め大木副議長が議長の職務を執り、何等の差支なく議事の終了を見たのであるから、特に此際議長選舉の爲めに議會を招集する必要は認められない。然らば、追加豫算議定の爲めに招集したのが主たる理由であるかといふに、急施を要する事項は、參事會が府會に代て議決することを得ることは、府縣制に規定があるのみならず、相當巨額の追加豫算を參事會に於て議決した先例が尠くない。然るに、知事が參事會へ提出することを避けたのは、現參事會員に信用を置かない爲めであるか、其の點甚だ了解に苦しむ。以上臨時會招集の主たる理由が孰れにあるか明瞭に答辯を望むと質問した。これに對し宇佐美知事は、既に告示してある通り、追加豫算と府會議長選舉とは、招集の眼目であ

つて、彼此主従の關係もなく區別もないのである。臨時府會に於て議長を選舉することは、既に先例があるばかりでなく、當局者としては常に府會の機關の完備充實を希望するので、先例に照して臨時會を開き、議長の選舉を行はんとするは、即ち議會を尊重する所以であると信ずる。又、參事會に於て追加豫算を議決し得るのは、金額參千圓未滿に限つて居る。參千圓以上と雖も、急施事項ならば、參事會に於て議決することが出来るけれども、此の場合に於て急施と看做すことは、聊か穩當を缺くのみならず、追加金額も五拾萬圓に上り、財政困難の本府としては、決して輕微の事項と看することが出来ぬから、旁々議長選舉と相俟つて、臨時會に付議することとなつたので、實に府會を尊重する精神に出たものと諒承せられたいと答辯したが、小俣議員は、この答辯に満足せず、今より一ヶ月前に開會してゐた通常府會に何故この追加豫算を提出しなかつたか、若し其の當時に追加を要する事實を豫知し得なかつたものならば、實に無定見と言はざるを得ない。又、この追加豫算の財源は、自然増收に基く繰越金であるが、斯かる巨額の自然増收を豫知し得なかつたのは無能の嫌がある。要するに、知事は追加豫算と議長選舉と相俟つて、臨時會を招集したる理由であると辯明せられるけれども、自分は之に満足することが出来



ない。知事は或一派から強要せられた爲めに、議長選舉の外に議案をも附加へたものではないか、其の真相を答辯せられたい」と迫まつた折柄、議員森田節から質問打切の動議が出て可決となり、質問は打切られた。然るに翌三十一日の會議に於ても前日と略ぼ同一趣旨の質問を繰返へし、其の中に「府政は紊亂して居る。其の紊亂の蔭に不純な事實があるのではないかと切言したのに對し、宇佐美知事は、本府財政が三部制なるが爲めに、收入の見込を立てる上に於ても、市部と郡部とが必しも同一歩調に統制の取れるものでない」と事實を詳説し、尙、府政は紊亂云々の質問に對しては「思はざる言葉を聽くものである。自分は不純の事實なしと斷言する。若し有りとすれば、事實を舉げて證明せられたい」と答へた。

ニ小侯議員の發言に關する件

議員片山久藏が、小侯議員の三十日及三十一日の質問演說中不謹慎の言語があつたことを難じて、其の取消を警告したところ、小侯議員は五日會に強要されて議長選舉の爲めに此臨時府會を招集したのであるとの言葉は、これを取消す旨議場に聲明した。

議事が終了したので、宇佐美知事は、挨拶を述べて會を閉ぢた。

議案

府臨第一號議案

大正十三年度東京府歳入歳出追加豫算書……………可決

府臨第二號議案

自大正十三年度東京府都市計畫事業費繼續年期  
至大正二十三年度東京府都市計畫事業費繼續年期  
及支出方法中更正ノ件……………可決

議決摘要

府臨第一號議案 大正十三年度東京府歳入歳出追加豫算書……………可決

歳入

經常部

第二款 國庫下渡金 金壹萬九千八百圓

第一項 警察費下渡金 金壹萬九千八百圓

第四款 市郡分賦額 金五拾壹萬參千貳百圓

第一項 市郡分賦額 金五拾壹萬參千貳百圓

經常部合計金五拾參萬參千圓

歳入總計金五拾參萬參千圓



歳出

經常部

第一款 警察費 金參萬參千圓

第一項 俸給及諸給 金參萬參千圓

(原案説明) 恩給法改正ノ結果警部補巡査給助支給増加ノ爲メ既定豫算ニ不足ヲ告グルニ由ル

經常部合計金參萬參千圓

臨時部

第三款 都市計畫事業費本年度支出額 金五拾萬圓

第一項 道路改修費本年度支出額 金五拾萬圓

(原案説明) 府臨第二號議案ニ伴フニ由ル

臨時部合計金五拾萬圓

歳出總計金五拾參萬參千圓

府臨第二號議案

自大正二十三年度 東京府都市計畫事業費繼續

至大正二十三年度 年期及支出方法中更正ノ件……………可決

一金四千參百八拾八萬五千四百五拾貳圓

都市計畫事業費中道路改修費

内譯

既定額金貳百四拾參萬參千七百五拾六圓

金貳百九拾參萬參千七百五拾六圓 大正十三年度支出額

既定額金參百參拾貳萬七千五百貳拾貳圓

金貳百八拾貳萬七千五百貳拾貳圓 大正二十三年度支出額

右環狀線放射線道路改修工事ハ事業ノ都合上年度割ヲ更正スルモノトス

第一臨時市部會

本會は大正十四年一月三十一日午後五時六分に開議し、即日議事終了、午後五時九分散會した。

久保議長は、會議の同意を得て、渡邊八十吉中野勇治郎を會議録署名議員に選定した。

議案

市部 臨第一號議案 大正十三年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……………可決



議決摘要

市部  
臨時第一號議案

大正十三年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……可決

歳入

經常部

第八款 國庫下渡金 金九萬四千八百圓

第一項 警察費下渡金 金九萬四千八百圓

第十款 市郡連帶市部收入額 金壹萬五千貳百四拾六圓

第一項 市郡連帶市部收入額 金壹萬五千貳百四拾六圓

經常部合計金拾壹萬四拾六圓

臨時部

第一款 繰越金 金四拾貳萬八千參百六拾四圓

第一項 前年度繰越金 金四拾貳萬八千參百六拾四圓

臨時部合計金四拾貳萬八千參百六拾四圓

歳入總計金五拾參萬八千四百拾圓

歳出

經常部

第一款 警察費 金拾五萬八千圓

第一項 俸給及諸給 金拾五萬八千圓

(原案説明) 恩給法改正ノ結果警部補巡查給助支給額増加ノ爲不足ヲ生スルニ由ル

第六款 市郡分賦市部負擔額 金參拾八萬四百拾圓

第一項 市郡分賦市部負擔額 金參拾八萬四百拾圓

經常部合計金五拾參萬八千四百拾圓

歳出總計金五拾參萬八千四百拾圓

第一臨時郡部會

本會は大正十四年一月三十一日午後五時十二分に開議し、即日議事終了、午後五時十三分散會した。

朝倉議長は、會議の同意を得て、右川慶治、井田忠信を會議録署名議員に選定した。

議案



臨郡第一號議案部 大正十三年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決  
議決摘要

臨郡第一號議案部

大正十三年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決

歳入

經常部

第二款 市郡連帶郡部收入額 金四千五百五拾四圓

第一項 市郡連帶郡部收入額 金四千五百五拾四圓

第三款 都市計畫特別税 金七萬五千圓

第二項 營業税附加税 金七萬五千圓

自然增收見込額

經常部合計金七萬九千五百五拾四圓

臨時部

第一款 繰越金 金七萬參千參拾六圓

第一項 前年度繰越金 金七萬參千參拾六圓

臨時部合計金七萬參千參拾六圓  
歳入總計金拾五萬貳千五百九拾圓

歳出

經常部

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金拾五萬貳千五百九拾圓

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金拾五萬貳千五百九拾圓

經常部合計金拾五萬貳千五百九拾圓

歳出總計金拾五萬貳千五百九拾圓

府會議員協議會

大正十四年五月十日府會議員協議會を開き、中野府會議長が座長となり、大婚二十五年に當らせらるゝを以て、賀表捧呈の件を協議し、森田節松見文平、足助嘉一郎、小俣政一、市倉兼吉の五名を賀表起草委員に擧げ、市倉兼吉を委員長として之を起草せしめ、其の報告に係る次の文案を、満場起立の下に謹んで可決した。而して中野議長は、直に參内捧呈した。

(賀表)

奉賀

大婚二十五年表

第五章 府會の行動

大正十四年の府會



天ニ繼キ極ヲ建テタマヒテ  
乾綱ハ萬古ニ光リ

訓ヲ翼ケ規ヲ贊ケタマヒテ

坤道ハ千秋ニ昭カナリ日月竝ヒ懸カリ剛柔徳ヲ合セタマフ臣勇治郎等誠歡誠喜頓首頓首  
伏シテ惟ミルニ

天皇陛下乃聖乃神

先帝ノ丕績ヲ恢弘シ

皇后陛下克順克正

顯朝ノ鴻謨ヲ潤飾シタマヒ二氣感應シテ品物咸亨ル詩ニ好述ヲ詠シ易ニ交泰ヲ繫ク星回  
リ斗轉シテ爰ニ

大婚二十五ノ紀ヲ迎へ良辰美景乃チ玉闕廣讌ノ盛ニ逢フ

宗祧ハ典アリテ六官命ヲ視ル

嘉祥ハ際ナクシテ九賓儀ヲ相ク玄暉煌煌トシテ峻ク朗ニ翠雲簇簇トシテ崇ク靄ケリ而シ  
テ儉ニ而シテ素ニ惟レ慈アリ惟レ仁アリ

惠ヲ厯眉ニ頒チ

恩ヲ孝義ニ及ホシ

賜ハ教化ニ垂レ

賚ハ陶冶ニ普カラシメタマフ率土均ク春風ノ和ニ扇カレ人胥齊ク時雨ノ澤ニ霑ヒ同ク

緝熙ヲ頌ン共ニ

太平ヲ謳ヒタテマツル豈止ニ一代ノ

慶典タルノミナラムヤ抑亦曠世ノ

休徵タリ

禁掖ノ邊

輦轂ノ下

徳ヲ戴ケルコト尤深クシテ

化ヲ蒙レルコト殊ニ厚ク福應ハ影響ノコトクシテ臻リ感仰ハ恒情ニ倍シテ濃ナリ臣勇治

郎等叨リニ公職ニ列リ議ヲ定メ衆ニ代ハリテ恭ク葵誠ヲ展ヘ敬ヒテ微忱ヲ效シタテマツ

ル欣抃慶躍ノ至リニ任フルコトナシ謹ミテ表ヲ奉リ陳賀シテ以聞ス

大正十四年五月十日

東京府會議長臣中野勇治郎誠歡誠喜頓首頓首謹言

第二回 臨時府會

本會は、恩賜男女青年團體事業獎勵資金に關する特別會計設置竝之に伴ふ追加  
豫算等議定の爲め招集せられたもので、大正十四年七月十七日午後三時四十分  
開會し、會議三日間に涉り、七月二十三日午後十一時十五分議事終了閉會した。



開會の當初に、知事宇佐美勝夫は、次の開會の辭を述べた。

「今日ヲ以テ第二回臨時府會市部會郡部會ヲ開會イタシマス。今回提出イタシマシタ案件ハ、名譽職參事會員、同補充員ノ選舉竝ニ恩賜男女青年團體事業獎勵資金ニ關スル特別會計ノ設置及之ニ關聯スル豫算警察費竝ニ住宅建設費貸付資金ノ追加豫算其ノ他之ニ附隨スル議案デアリマス。役員ノ選舉ニ付キマシテハ法ノ規定ニ基キマシテ選舉ヲ了セラレムコトヲ希望イタシマス。又、恩賜男女青年團體事業獎勵資金ハ畏クモ 天皇 皇后兩陛下御結婚滿二十五年ノ御祝儀ニ際シマシテ、男女青年團體事業獎勵ノ 思召ヲ以チマシテ、特ニ御内帑金七拾五萬圓ヲ下賜セラレタノデアリマシタガ、其ノ内、本府ニ對シマシテ四萬圓ヲ配付セラレタノデアリマス。茲ニ 聖旨ニ副ヒ奉ラムガ爲ニ、之ヲ特別會計トシテ資金貳拾萬圓ニ達シマスマデ、一般會計ヨリ大正十四年度ハ八千圓、大正十五年度以降ハ毎年壹萬圓ヲ繰入レ、該資金ヨリ生ジマス收入ヲ以テ、男女青年ノ修養訓練ニ付キマシテ、適切ナル施設ニ充テ、以テ此事業ノ振興ヲ圖ラムトスルノデアリマス。次ニ警察費ハ、連帶市部郡部ノ各會計ヲ通ジマシテ、合計四拾萬參千圓ヲ追加セムトスルノデアリマスガ、近時郡部ノ發展ニ伴ヒマシテ、警察力ノ不足スルニ鑑ミ、警部補巡查四百名ノ増員ニ要シマス諸費竝ニ警察官吏鐵道無賃乘車券廢止ノ結果ニ伴ヒマス旅費既定豫算ノ不足ヲ計上シタノデアリマス。住宅建設費貸付資金ハ、本年度ニ於キマシテ大藏省預金部ヨリ融通セラレマス資金四百拾壹萬圓ノ配當ヲ受ケマシタノデ、之ヲ住宅組合、産業組合及荏原郡目黒町外八箇町村其ノ他財團法人ニ貸付シテ、住宅緩和ノ目的ヲ達セムトスル次第デアリマス。尙ホ詳細ハ、本

官又ハ參與員ヨリ隨時説明スル所ガアリマスカラ、ドウゾ慎重審議適當ノ議決アラムコトヲ切望イタシマス。尙ホ此機會ニ於テ、一言致シテ置キタイコトハ、過般東京府ノ高等官ノ中ニ交送ガアリマシテ、武井事務官ハ、新タニ庶務課長トナリ、戸塚事務官ハ地方課長トナリ、矢野事務官ハ商工課長ニ任命イタシマシタ。此際ニ於キマシテ、三事務官ヲ御紹介申シテ置キタイト思ヒマス(大正十四年府會速記録) 次ニ宇佐美知事の紹介に依り武井戸塚矢野の三事務官は、各登壇して挨拶を述べた。

中野議長は次の事項を報告した。

丑官發秘第七一號

大正十四年七月十日

東京府知事 宇 佐 美 勝 夫

東京府會議長 中野勇治郎殿

本日左ノ通大正十四年第二回臨時東京府會市部會郡部會ノ議事參與ヲ命シ候條此段及通知候也

東京府書記官 百 濟 文 輔 東京府書記官 近 藤 駿 介

地方事務官 矢 野 恕 地方事務官 戸 塚 九 一 郎



地方事務官	神尾 弑春	地方事務官	武井 群嗣
東京府屬	中村 芳貞	東京府屬	茂木 一二
東京府屬	原村 七郎	東京府屬	永安 仙藏
東京府屬	杉浦 熊太郎	東京府屬	平間 莊太郎
地方農林主事	高田 二平		

秘甲第九三號ノ二

臨時府會議事參與員任命ノ件通知

警視廳書記官	平田 紀一	警視廳書記官	川淵 洽馬
--------	-------	--------	-------

警視廳警視	田邊 保皓	兼警視廳警部	淺田 福一郎
-------	-------	--------	--------

右者府縣制第四十九條ニ依リ大正十四年第二回臨時府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ命シ候ニ付此段及通知候也

大正十四年七月十三日

警視總監 太田 政弘

東京府會議長 中野勇治郎殿

丑庶發第一五號

大正十四年二月二十七日

東京府知事 宇佐美勝夫

東京府會議長 中野勇治郎殿

本年二月二十五日東京市本所區選舉區府會議員補闕選舉ニ於テ左記ノ者當選候ニ付及通知候也

記

東京市本所區德右衛門町十三番地

内田 安右衛門

丑庶發第二九七號

大正十四年七月八日

東京府知事 宇佐美勝夫

東京府會議長 中野勇治郎殿

府會議員失格ノ件

大正十三年六月十日執行ノ東京府北豊島郡選舉區ニ於ケル府會議員當選ノ效力ニ關スル行政訴訟ノ結果六月二十日丸澤萬五郎ノ當選ハ之ヲ無効トストノ判決有之候ニ付此段及通知候也

丑地發第一一二六號

大正十四年七月九日

東京府知事 宇佐美勝夫



東京府會議長 中野勇治郎殿

府會議員當選ノ件通知

左記ノ者府縣制第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ北豊島郡選舉區ニ於テ府會議員ニ當選候條此段及御通知候也

記

北豊島郡西巢鴨町大字巢鴨千九百八十四番地

保坂治太郎

而して議長は報告に係る、内田保坂の兩議員を議場に紹介し、次に、會議の同意を得て、小川兼四郎、立石知滿を會議錄署名議員に選定した。

七月二十三日議事が終了したので、宇佐美知事は閉會の辭を述べて、會を閉ぢた。

議案

府二臨第一號議案 東京府恩賜男女青年團體事業獎勵資金設置

並管理規程……………可決

府二臨第二號議案 大正十四年度東京府歳入歳出追加豫算書……………可決

府二臨第三號議案 大正十四年度東京府恩賜男女青年團體事業

府二臨第四號議案 獎勵資金歳入歳出豫算書……………可決

大正十四年度東京府住宅建設費貸付資金歳

入歳出追加豫算書……………可決

府二臨第五號議案 起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法……………可決

府二臨第六號議案 起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法……………可決

議決摘要

府二臨第一號議案 東京府恩賜男女青年團體事業獎勵資金

設置並管理規程……………可決

第一條 天皇后兩陛下御結婚滿二十五年御祝儀ニ際シ男女青年團體事業獎勵ノ思召ヲ以テ下賜セラレタル恩賜金ヲ以テ東京府恩賜男女青年團體事業獎勵

資金トス

第二條 本資金ハ男女青年團體ノ修養ヲ獎メ其ノ發達ヲ圖ルモノトス

本資金ハ之ヲ特別會計トス

第三條 本資金ハ恩賜金及左ノ收入ヲ以テ基本金トシテ積立ツルモノトス



一 蓄積金

二 寄附金

三 本資金歲計剩餘金

前項第一號ノ蓄積金ハ基本金貳拾萬圓ニ達スル迄大正十四年度金八千圓大正十五年以降毎年金壹萬圓ヲ普通經濟ヨリ繰入レ積立ツルモノトス

第四條 本資金ハ左ノ收入ヲ以テ支出ニ充ツルモノトス

一 基本金ヨリ生スル收入

二 指定寄附金其ノ他ノ收入

基本金貳拾萬圓ニ達スル迄ハ前條第一號ノ蓄積金ヲ以テ支出ニ充ツルコトヲ得

第五條 基本金ハ之ヲ公債證書ニ換ヘ又ハ確實ナル銀行其ノ他ニ預入レ管理ス但シ預入ノ場合ハ擔保ヲ提供セシムルコトアルヘシ

基本金ハ府又ハ市郡部經濟ニ利付ニテ運用スルコトヲ得

第六條 本規程ノ施行ニ關スル細則ハ知事之ヲ定ム

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

府二臨第二號議案 大正十四年度東京府歲入歲出追加豫算

書……………可 決

歲 入

經 常 部

第二款 國 庫 下 渡 金 金八千七百九拾圓

第一項 警 察 費 下 渡 金 金八千七百九拾圓

第四款 市 郡 分 賦 額 金壹萬參千八百六拾圓

第一項 市 郡 分 賦 額 金壹萬參千八百六拾圓

經常部合計金貳萬貳千六百五拾圓

歲入總計金貳萬貳千六百五拾圓

歲 出

經 常 部

第一款 警 察 費 金壹萬四千六百五拾圓



第一項 俸給及諸給 金八千五百五拾圓

(原案説明) 巡查定員増加ノ必要上地方募集ニ要スル經費竝ニ警察官吏鐵道無賃乗車券  
(勘合證)廢止ノ結果旅費ニ不足ヲ告クル等ニ由ル

第二項 廳 費 金千百圓

第三項 警察機密費 金五千圓

第六款 教 育 費 金八千圓

第五項 學 事 諸 費 金八千圓

經常部合計金貳萬貳千六百五拾圓

歲出總計金貳萬貳千六百五拾圓

府二臨第三號議案 大正十四年度東京府恩賜男女青年團體  
事業獎勵資金歲入歲出豫算書……………可 決

歲 入

第一款 恩賜男女青年團體事業獎勵資金 金四萬八千八百五圓

第一項 恩 賜 金 金四萬圓

第二項 財 產 收 入 金八百四圓

第三項 普通經濟繰入金 金八千圓

第四項 寄 附 金 金壹圓

歲入合計金四萬八千八百五圓

歲 出

第一款 恩賜男女青年團體事業獎勵資金 金四萬八千八百五圓

第一項 獎 勵 費 金八千八百五圓

第二項 公債證書買入代 金四萬圓

歲出合計金四萬八千八百五圓

府二臨第四號議案 大正十四年度東京府住宅建設費貸付資

金歲入歲出追加豫算書……………可 決

府二臨第五號議案 起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法……………可 決

第一條 住宅組合產業組合在荏原郡目黒町外八箇町村及財團法人千住製絨所久母



會ニ對スル住宅建設費貸付資金トシテ大正十四年度ニ於テ金參百八拾四萬圓  
ヲ起債シ大藏省預金部ヨリ融通ヲ受クルモノトス

第二條 公債ノ引受ニ對シテハ記名債券ヲ發行ス

前項ノ債券ハ額面五百圓、壹千圓、五千圓、壹萬圓及五萬圓ノ五種トシ債券ノ様式  
ハ知事之ヲ定ム

債券ノ發行價格ハ額面金額ト同額トス

第三條 公債ノ利子ハ一箇年百分ノ四・八トシ毎年度九月一日、三月一日ノ二期ニ  
於テ各其ノ日迄前半箇年ニ屬スル分ヲ仕拂フモノトス但シ一期ニ滿タサル利  
息ノ計算ハ借入ノ際ハ拂込ノ翌日ヨリ償還ノ際ハ仕拂ノ當日迄日割計算ニ依  
ルモノトス

第四條 公債元金ハ大正十五年度迄据置キ大正十六年度ヨリ大正三十三年度ニ  
至ル十八箇年ニ於テ左ノ通償還スルモノトス但シ經濟ノ都合ニ依リ繰上ケ償  
還ヲ爲スコトアルヘシ

大正十六年度 金拾參萬八千圓  
大正十七年度 金拾四萬五千圓

大正十八年度	金拾五萬貳千五百圓
大正十九年度	金拾五萬九千圓
大正二十年度	金拾六萬七千五百圓
大正二十一年度	金拾七萬五千圓
大正二十二年度	金拾八萬四千圓
大正二十三年度	金拾九萬貳千五百圓
大正二十四年度	金貳拾萬貳千五百圓
大正二十五年度	金貳拾壹萬貳千圓
大正二十六年	金貳拾貳萬貳千圓
大正二十七年	金貳拾參萬參千五百圓
大正二十八年	金貳拾四萬四千五百圓
大正二十九年	金貳拾五萬六千圓
大正三十年	金貳拾六萬九千圓
大正三十一年	金貳拾八萬五千五百圓
大正三十二年	金貳拾九萬五千五百圓



大正三十三年度 金參拾壹萬圓

第五條 公債元金ハ債券ト引換ニ之ヲ仕拂フモノトス

第六條 第四條ノ償還及第三條ノ利子仕拂ハ住宅組合産業組合荏原郡目黒町外八箇町村及財團法人千住製絨所久母會ニ對スル貸付金ノ償還元利金及一般歳入ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

府二臨第六號議案 起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法………可 決

第一條 荏原郡目黒町外七箇町村ニ對スル住宅建設費貸付資金トシテ大正十四年度ニ於テ金貳拾七萬圓ヲ起債シ大藏省預金部ヨリ融通ヲ受クルモノトス

第二條 公債ノ引受ニ對シテハ記名債券ヲ發行ス

前項ノ債券ハ額面五百圓、壹千圓、五千圓、壹萬圓ノ四種トシ債券ノ様式ハ知事之ヲ定ム

債券ノ發行價格ハ額面金額ト同額トス

第三條 公債ノ利子ハ一箇年百分ノ六・五トシ毎年度九月一日、三月一日ノ二期ニ於テ各其ノ日迄前半箇年ニ屬スル分ヲ仕拂フモノトス但シ一期ニ滿タサル利

息ノ計算ハ借入ノ際ハ拂込ノ翌日ヨリ償還ノ際ハ仕拂ノ當日迄日割計算ニ依ルモノトス

第四條 公債元金ハ大正十四年度ヨリ大正三十年度ニ至ル十七箇年ニ於テ左ノ通償還スルモノトス但シ經濟ノ都合ニ依リ繰上ケ償還ヲナスコトアルヘシ

大正十四年度 金參千圓

大正十五年度 金壹萬圓

大正十六年度 金壹萬千圓

大正十七年度 金壹萬千五百圓

大正十八年度 金壹萬貳千圓

大正十九年度 金壹萬參千圓

大正二十年度 金壹萬四千圓

大正二十一年度 金壹萬五千圓

大正二十二年度 金壹萬六千圓

大正二十三年度 金壹萬七千圓

大正二十四年度 金壹萬九千圓



大正二十五年 度 金貳萬五百圓

大正二十六年 度 金貳萬千五百圓

大正二十七年 度 金貳萬貳千五百圓

大正二十八年 度 金貳萬四千五百圓

大正二十九年 度 金貳萬六千圓

大正三十年 度 金壹萬參千五百圓

第五條 公債元金ハ債券ト引換ニ之ヲ仕拂フモノトス

第六條 第四條ノ償還及第三條ノ利子仕拂ハ荏原郡目黒町外七箇町村ニ對スル貸付金ノ償還元利金及一般歳入ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第二回 臨時市部會

本會は、名譽職參事會員並同補充員選舉及追加豫算議定の爲め招集せられたもので、大正十四年七月十七日午後五時三十二分に開會し、會議三日間に涉り、七月二十三日午後十一時十二分議事終了散會した。

久保議長は、會議の同意を得て、松見文平小俣政一を會議録署名議員に選定した。

七月二十三日、久保議長は、名譽職參事會員並同補充員の選舉投票を順次に行ひ、次の通夫々當選した。

名譽職參事會員

高崎 高次郎

草場 九十九

松崎 文次

大神田 軍治

笠原 慶藏

名譽職參事會員補充員

大野 菊三

渡邊 八十吉

渡邊 平次郎

伊藤 農夫雄

新倉 高藏

議案



市 二臨第一號議案部

大正十四年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……………可決

議決摘要

市 二臨第一號議案部

大正十四年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……………可決

歳入

經常部

第九款 國庫下渡金 金壹萬參千八百七拾五圓

第一項 警察費下渡金 金壹萬參千八百七拾五圓

第十款 雜收 金壹萬八千百六拾參圓

第七項 過年度府稅 金壹萬八千百六拾參圓

第七款 市郡連帶市部收入額 金六千七百六拾八圓

第一項 市郡連帶市部收入額 金六千七百六拾八圓

經常部合計金參萬八千八百六圓

歳入總計金參萬八千八百六圓

歳出

經常部

第一款 警察費 金貳萬參千百貳拾五圓

第一項 俸給及諸給 金貳萬參千百貳拾五圓

(原案説明) 鐵道無賃乗車券勸合證廢止ノ結果旅費ニ不足ヲ告クルニ由ル

第七款 市郡分賦市部負擔額 金壹萬五千六百八拾壹圓

第一項 市郡分賦市部負擔額 金壹萬五千六百八拾壹圓

經常部合計金參萬八千八百六圓

歳出總計金參萬八千八百六圓

第二臨時郡部會

本會は、名譽職參事會員並同補充員選舉及追加豫算議定の爲め招集せられたもので、大正十四年七月十七日午後五時三十九分に開議し、會議三日間に涉り、七月二十三日午後十時三十五分議事終了散會した。

朝倉議長は、會議の同意を得て、西村菊次郎保坂治太郎を會議録署名議員に選定した。



七月二十三日、朝倉議長は、名譽職參事會員並同補充員の選舉投票を順次に行ひ、次の通夫々當選した。

名譽職參事會員

伊藤武七郎

中村亨

内田秀五郎

森田節

林連

名譽職參事會員補充員

島田文治

高城正次

吉田丕文

西村菊次郎

右川慶治

議案

郡部  
二臨第一號議案部

大正十四年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決

議決摘要

郡部  
二臨第一號議案部

大正十四年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決

歳入

經常部

第十款 國庫下渡金 金貳拾壹萬九千貳百九拾九圓

第一款 警察費下渡金 金貳拾壹萬九千貳百九拾九圓

第二款 雜收 金拾五萬千四百四拾七圓

第七項 過年度府稅 金拾五萬千四百四拾七圓

第三款 市郡連帶郡部收入額 金貳千貳拾貳圓

第一項 市郡連帶郡部收入額 金貳千貳拾貳圓

經常部合計金參拾七萬貳千四百六拾八圓

歳入總計金參拾七萬貳千四百六拾八圓

歳出



經常部

第一款 警察費 金參拾萬八千八百九拾九圓

第一項 俸給及諸給 金貳拾貳萬九千四百貳拾參圓

(原案説明) 郡部ノ發展ニ伴ヒ戸口ノ増加ト各種犯罪取締ノ爲警察力ノ不足ニ鑑ミ警部補  
巡查四百人増員ヲ必要トシ之ニ要スル經費竝警察官吏無賃乗車券勘合證廢止ノ結果旅費  
ニ不足ヲ告クルニ由ル

第二項 廳費 金七萬九千四百七拾六圓

(附記) 理事者の説明に依れば震災後國費の支辨を以て郡部に巡查二千名を増置  
せられたが十四年度に於ては之を千六百名に減員せられた。然るに現狀に於て  
は警察官の減員不能の爲め府費に於て四百名を増員補充するといふのである。

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金六千九百六拾九圓

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金六千九百六拾九圓

經常部合計金參拾壹萬五千八百六拾八圓

臨時部

第一款 警察廳舍建築費 金五萬六千六百圓

第一項 建築費 金五萬六千六百圓

巡查派出所駐在所増設費等

臨時部合計金五萬六千六百圓

歲出總計金參拾七萬貳千四百六拾八圓

府會議員協議會

大正十四年九月五日府會議員協議會を開き各種常置委員の選定を議長に一任すること  
を決議した。而して中野議長は次の通選定した。

○警務常置委員

- |       |       |
|-------|-------|
| 佐伯兼次郎 | 飯塚友一郎 |
| 島田文治  | 西村菊次郎 |
| 井田忠信  | 森圓善藏  |
| 大野菊三  | 大井善藏  |
| 内田健次郎 | 小川兼四郎 |
| 佐藤藏三  | 吉田丕文  |
| 有馬淺雄  | 小俣政一  |
| 伊藤平藏  | 宮村龜一  |

委員長 向山庄太郎

第五章 府會の行動 大正十四年の府會



○土木常置委員

伊藤農夫 雄  
松井錦橋  
委員長 深山彦平  
高橋信汎  
岩浪光二 郎  
石井武一郎

○教育常置委員

佐伯兼次 郎  
內田安右衛門  
田中恭三 郎  
鈴木精一  
阿部溫知

○勸業常置委員

飯塚友一 郎  
大久保源之丞  
伊藤藤平 藏  
立石知滿

高橋俊太

○衛生常置委員

杉野善作  
平野幸三 郎  
高城正次  
渡邊八十吉  
委員長 遠藤千元

○稅政常置委員

大井玄洞  
大野傳吉  
平野幸三 郎  
平林淺次 郎  
有馬淺雄

○帝都復興常置委員

片山久藏  
委員長 飯塚友一郎  
野村此平  
大久保源之丞

松見文平  
津谷一治 郎  
渡邊八十吉 郎  
田中源  
保坂治太 郎

委員長 野村

赤塚五郎 平  
赤塚五郎 平  
鶴岡和文 郎  
井田忠信

委員長 細谷

細谷鎌太 郎  
新倉高藏 郎  
篠房高藏 郎  
榎本銚太郎

赤塚五郎

田中源郎

小泉金之助

小侯政一

關田次郎

關仲次郎

渡邊平次郎

榎本利亮

平野幸三郎

細谷鎌太郎

內田安右衛門

協田安右衛門



内田健次郎  
足助嘉一郎  
高橋俊太郎  
保坂治太郎  
木住野朝三  
鈴木精一  
岸忠左衛門

○東京都制調査委員

杉野善作  
内田安右衛門  
脇田勇  
小川兼四郎  
佐伯兼次郎  
田中恭三郎  
宮村龜一  
石井武一郎  
平林淺次郎  
岸忠左衛門

委員長  
大久保源之丞

松井錦橋  
大野傳吉  
伊藤農夫  
渡邊平次郎  
關仲次郎  
市倉兼吉  
立石知滿  
右川慶治  
榎本利亮

新倉高藏  
阿部溫知  
渡邊平次郎  
榎本銈太郎  
井田忠信  
岩浪光二

篠房輔

○社會常置委員

松見文平  
遠藤千元  
片山久藏  
田中恭三郎  
高城正次  
島田文治

○荒川改修實行委員

杉野善作  
深山彦平  
島田文治  
小泉金之助

委員長  
篠房

○多摩川改修實行委員

松見文平  
新倉高藏  
森圓藏

大井玄洞  
津谷一治郎  
足助嘉一郎  
鶴岡和文  
木住野朝三

遠藤千元  
渡邊八十吉  
右川慶治  
有馬淺雄

野村此平  
阿部溫知  
岸忠左衛門



市 倉 兼 吉

吉 田 丕 文

○目黒川改修實行委員

細 谷 鎌 太 郎	大 井 玄 洞
松 井 錦 橋	大 野 傳 吉
赤 塚 五 郎	伊 藤 平 藏
小 俣 政 一 郎	保 坂 治 太 郎
石 井 武 一 郎	伊 藤 農 夫 雄
立 石 知 滿	委員長 高 城 正 次
西 村 菊 次 郎	高 橋 信 汎
高 橋 信 汎	

通常府會

本會は大正十四年十一月二十四日午後三時五十九分に開會し、會議十二日間に  
渉り、十二月二十三、三日午後十時十一分議事終了閉會した。

開會の當初に、知事平塚廣義は、次の開會の辭を述べた。

「本日ヲ以テマシテ、大正十四年通常府會、市部會、郡部會ヲ開會致シマス。私ハ、曩ニ東京府知

事ノ重任ヲ拜シマシテ、茲ニ初メテ本會ニ臨ミマシテ、提案ノ大綱ヲ説明スル機會ヲ得マス  
ルコトハ誠ニ光榮トスル所デアリマス。本府ハ大震災火災ノ大打撃ニモ拘ラス、協力一致致  
シマシテ、大ニ努力ヲ致シマシタ爲メ、漸次復興ノ歩武ヲ進メマシテ、財政經濟モ亦幾分カ恢  
復ノ曙光ヲ見ルニ至リマシタコトハ大ニ喜ブベキコトデアリマス。尙ホ現下ノ實情ハ  
安心ヤ或ハ油斷ヲ許サナイ爲ニ、堅忍不拔以テ一陽來復ノ日ヲ待ツコトヲ必要ト致スノデ  
アリマス。隨ツテ十五年度豫算ノ編成ニ當リマシテハ、政府ノ方針ニ順應致シマシテ、依然  
緊縮ノ方針ヲ採用スルコトト致シタノデアリマス。震災善後復興復舊ニ關スル所ノ施設  
ニ就キマシテハ、夙ニ計畫ノ確定シタモノガアリマス。ノデ、銳意既定ノ計畫ニ從ツテ其ノ  
實行ニ努メ、一日モ早ク其ノ完成ヲ圖ルコトヲ要スルノデアリマス。カラ、復興局及東京市  
ノ施設ト共ニ、銳意其ノ促進ニ努テ居ル次第デアリマス。而シテ此等ノ復興復舊事業ノ年  
度割ハ、環狀線放射線道路ヲ除ク外ハ、大體十五年度ヲ以テ終了スルノデアリマシテ、十五年  
度豫算ニ於キマシテハ、復興豫算五百八拾八萬七千五百拾五圓、復舊豫算ガ百九拾貳萬五千  
五百圓、合計七百八拾壹萬參千拾五圓ヲ計上致シマシテ、内約四百四拾萬圓ハ、府債トシテ國  
庫カラ資金ノ供給ヲ受クルコトニナツテ居リマス。斯ク復興復舊事業ノ大部分ハ、十五年  
度ヲ以テ終了致シマス。ノデ、既定豫算ニ不足ヲ生ジ、又ハ電車軌道敷設ノ關係上ヨリシテ、  
幅員ヲ増加スル國道ノ道路橋梁ヲ完成スル爲ニ、東海道、陸羽街道、仲仙道、千住大橋等合計八  
拾四萬四千七百八拾壹圓ヲ増加計上致シテ居ルノデアリマス。教育上ノ施設ニ關シテハ、  
燒失シタ中等學校ノ建設費百五拾壹萬圓、備品整備費用拾壹萬四千五百圓ヲ計上致シタ外、



既定計畫ニ依ル學級増加ノ完成ヲ圖ルト共ニ郡制廢止ニ伴ツテ移管致シタ中等學校ノ改善充實ニ關スル經費約貳拾九萬參千四百八拾七圓ヲ計上シタノデアリマス。中等學校ノ新設ハ、次年度以降ニ於テ實行ヲ致シタイ考デアリマス。又曩ニ篤志家ノ寄附ヲ受ケテ上野竹ノ臺ニ建築中ノ美術館ノ工事ハ、着々進行致シマシテ、明年三月竣工ノ豫定デアリマス。我國唯一ノ美術館ガ、東京府ノ營造物トシテ開設セラレ、廣ク我邦ノ美術工藝ノ進歩發達ニ貢獻スルコトヲ得マスコトハ、慶賀ニ堪ヘナイ次第デアリマス。隨テ美術館ノ開館使用ニ關スル若干ノ經費ハ、十五年度豫算ニ計上シテアル次第デアリマス。産業上ノ施設ニ就テハ、工業試驗場設置ニ關スル年度割、水産會補助及水産試驗調査ニ關スル經費、度量衡ニ關スル所ノ經費、乾藪取引助成ニ關スル所ノ經費等ヲ計上致シマシタ。都市計畫事業ノ環狀線放射線道路ノ改修ハ、其ノ一部ヲ復興事業トシテ執行スルノデアリマスルガ、事業費總額四千參百八拾八萬五千四百五拾貳圓ハ、震災ノ爲繼續年期ヲ五箇年延長シテ、大正二十三年度ニ完成ト定メラレテ居ルノデアリマスルガ、十五年度以降ノ支出額ハ、尙ホ約參千貳百萬圓ニ上ボルノデアリマス。然ルニ隣接町村ノ發達膨脹ハ、近時誠ニ急激デアツテ、財政ノ容ルス限り之ヲ繰上ゲテ完成スルノガ、急務ナルコトヲ痛感シテ、三年繰上ゲテ大正二十年度ニ完成スルコトニ致シマシタ。其ノ他都市計畫區域ノ制度ニ依リ、特別工業地區ニ指定セラレタル所ノ葛西橋及戸田橋ノ架設、厚木街道及吾嬬行徳線改修竝ニ郡部三十二路線改修費、土地區劃整理補助等ノ施設ニ依リマシテ、府下土木事業ノ急施ヲ要スルモノノ一部ニ充テタイト計畫致シタ次第デアリマス。以上大體ノ方針ノ下ニ編成シタ所ノ大正十五年度豫

算ノ總額ハ、連帶經濟ニ於テ貳千百六拾參萬餘圓、市部經濟約千百七拾九萬圓、郡部經濟八百拾貳萬餘圓、合計四千五拾四萬餘圓デアリマス。之ヲ前年度當初ノ豫算ニ比較スレバ、計數ノ上ニ於テ、七百六拾六萬餘圓ノ増加トナル次第デアリマスルガ、前年度ニ於テハ、震災復舊費及工業試驗場建築費等ヲ追加豫算トシテ提案シタ結果、當初豫算ニ含マレテ居ラヌノデアリマス。之ヲ當初豫算ニ加算シテ比較致シテ見マスルナラバ、參百五拾參萬餘圓ノ増加トナル次第デアリマス。併ナガラ大正十五年度ニ於テ法令ニ基イテ支出ヲ要スル所ノ増加ノ額ハ、六拾六萬八千餘圓竝ニ既定計畫ニ基ク所ノ自然ノ増加及特別財源ニ依ル所ノ震災復舊復興事業費、都市計畫事業費ノ増額ヲ合セマシテ、貳百四拾四萬四千餘圓合計參百拾壹萬餘圓ヲ計上シテ居リマスカラ、之ヲ控除致シマスルト、結局四拾壹萬六千餘圓ノ増加ト相成ル次第デアリマス。法令ノ結果ニ基ク増額ト見ルベキ主ナルモノヲ舉グレバ、警部補巡查其ノ他ノ給助費貳拾五萬四千圓、學校教員恩給基金年功加俸拾貳萬七千餘圓、府稅徵收交付金拾萬壹千餘圓、其ノ他兵式教練振作費、或ハ師範學校專攻科設置經費、市町村傳染病豫防補助費、河川改良費分擔金、師範學校生徒ノ學資給與等ノ増額デアリマス。既定計畫ニ屬スル増額ノ主ナルモノハ、警部補巡查増員ニ伴ツテ四拾貳萬千餘圓、中等學校學級増加竝ニ編成替人員増加ニ伴フモノガ拾壹萬八千餘圓、中川橋架換費及江戸川橋葛西橋架換費年度割ガ貳拾四萬千餘圓、日野橋岩淵橋架換費年度割貳拾八萬八千餘圓、其ノ他郡部所屬道路改修費年度割ニ於テ増加スルモノ竝特別會計編入金等ニ於テ増加スルモノデアリマス。新規計畫ト見ルベキモノト致シテハ、東京府所管ニ於キマシテハ移管學校改善費、社會教育



振作費師範學校附屬小學校ノ學級増加、私立中等學校補助費ノ増額、東京厚木線外一路線ノ道路改修費、戸田橋葛西橋架橋費、土地區劃整理ノ補助、乾藪取引ノ助成費、郡部所屬ニ於テハ、其ノ所屬ノ三十二路線ノ道路改修費等ガ主ナルモノデアリマス。警視廳所管ニ於テハ、消防小型自動車設備ニ要スル諸經費、補充水管購入費、警察分署四個所ノ建築費及同二個所ノ開設費等ヲ執レモ緊急已ムヲ得ザルモノトシテ計上シタ次第デアリマス。大正十五年度豫算總額ヲ所管別ニ區別スルト、東京府所管ハ貳千參百九拾貳萬八千餘圓之ヲ前年度ニ比較スレバ參百九拾萬七千餘圓ノ増加トナリマス。警視廳所管ハ千七百六拾壹萬五千餘圓之ヲ前年度ニ比較スレバ參拾七萬九千餘圓ヲ減ズル次第デアリマス。併シ前述ノ如ク、法令ノ結果ニ基ク増額並ニ既定計畫ニ基ク自然ノ増加及復興事業都市計畫事業ノ増額等ガ相當多額ニ達シテ居ルカラ、各之ヲ控除シテ前年度ニ比較スレバ、東京府所管ニ於テハ貳萬四千圓ヲ増シ、警視廳所管ニ於テハ震災復舊費等ガ非常ニ減額シタ結果、參拾九萬餘圓ノ増額ト相成ル次第デアリマス。以上申述べマシタ所ノ歳出ニ充當スベキ歳入ニ就テハ、課稅物件課稅標準等ガ増加シタ結果ニ依ル自然增收或ハ繰越金等ガアル爲ニ、前年度ニ比較シテ府稅稅率ヲ低減シテ多少廢減稅ヲ斷行致シマシテ、負擔ノ輕減ヲ圖ルコトヲ得タ次第デアリマス。即チ稅收入ニ就テ見マスレバ、十五年度ハ大體前年度ノ課率ヲ踏襲シテ居ルケレドモ、豫テ府會ノ御意見ノ存スル所ヲ參酌シテ、社會政策的見地ヨリ特種ノ稅目ニ對シテ減免ヲ致シタノデアリマス。又營業稅雜種稅中市部ト郡部トノ間ニ、稅率ノ著シク差違アルモノガアリ、而シテ其ノ課稅物件ガ移動性ニ富ミマスル爲ニ、脫稅或ハ其ノ他徵稅上ニ不

都合ヲ生ズル虞ノアルモノハ、其ノ間ノ權衡ヲ圖ルガ爲ニ、其ノ稅率ヲ適宜更正致シマシタ。又郡部ニ於テ前年度ノ如ク、内藏兩大臣ノ許可ヲ得テ特ニ直接三國稅ニ對シテ、制限外課稅ヲ爲サントシタノデアリマスルガ、十五年度ニ於テハ、制限外課稅ヲ爲シ得ル理由ガ無クナツタ爲ニ、其ノ稅額ダケヲ減額致シタ次第デアリマス。隨テ之ト權衡ヲ保ツガ爲ニ、一般的負擔トナル所ノ家屋稅及戶數割ニ於テ、前年度ヨリ約一割ヲ減稅シタノデアリマス。以上ノ方針ニ基キマシテ、減免シタ主ナル稅目ヲ申シ上げレバ、市部及郡部ニ於テハ、賃宿業、人事ニ關スル周旋業、賣藥行商及營業人力車ノ課稅ノ廢止デアリマス。市部ニ於テハ、營業用貨物自動車ノ稅率ノ輕減、郡部ニ於テハ、自轉車自動車其ノ他ノ物件稅及藝妓屋稅等ノ輕減デアリマス。此等ニ因テ無論減收トナルノデアリマスガ、一面ニ於テハ課稅標準ノ増加等ガアルノデ、之ニ伴フ稅收入ノ増加ガアリマスカラ、彼此差引キマシテ、結局稅收入全體トシテハ、市部ニ於テ八拾七萬餘圓、郡部ニ於テ參拾五萬餘圓増額ト相成ル次第デアリマス。ソレ故ニ此増額ト稅外收入ノ増加ト相俟ツテ歳出増加ニ對スル財源ト致シタ次第デアリマス。尙府稅賦課規則ニ就テハ、豫テ府會ノ意見等モアリマシタノデ、之ヲ參酌シテ若干ノ改正ヲ加ヘルコト、致シマシタ。尙郡部ノ家屋稅ハ、賃貸價格ヲ標準トスルヲ適當ト考ヘ、改正ヲ提案致シマシタ(以下省略)(大正十四年府會速記錄)

中野議長は、次の事項を報告し、尙、會議の同意を得て西村菊次郎佐藤藏三を會議  
錄署名議員に選定した。

丑官發第一五八號



大正十四年十一月二十日

東京府知事 平塚 廣義

東京府會議長 中野勇治郎殿

本日大正十四年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與左ノ通相命候條此段及通知候也

東京府書記官	菊池 慎三	東京府書記官	近藤 駿介
地方事務官	矢野 恕	地方事務官	正木 虎藏
地方事務官	神尾 弑春	地方事務官	安井 誠一郎
地方技師	伴 宜	地方技師	阿部 五郎
地方技師	鶴飼 長三郎	地方技師	長沼 政五郎
地方技師	藤田 周造	東京府屬	横島 常三郎
東京府屬	中村 芳貞	東京府屬	大谷 善次郎
東京府屬	村田 佐吉	東京府屬	石川 隆八
東京府屬	平野 綠	東京府屬	野坂 耕輔
東京府屬	原村 七郎	東京府屬	茂木 一二
東京府屬	近藤 賢次	東京府屬	永安 仙藏

東京府屬	長野 欽介	東京府屬	杉浦 熊太郎
東京府屬	北川 太門	東京府技手	川島 惠三郎
道路主事	南 孝夫		

秘甲第一五一號ノ二

警視廳書記官	市村 慶三	警視廳書記官	石井 保
警視廳書記官	中谷 政一	警視廳書記官	鈴木 敬一
警視廳書記官	川村 貞四郎	警視廳事務官	高野 多助
警視廳警視	相川 勝六	警視廳消防司令	山川 秀好
警視廳警部兼屬	淺田 福一郎	警視廳警部兼屬	林 千次郎
警視廳技師	龜岡 慶治	警視廳技手	松本 錄壽

右ノ者ニ對シ府縣制第四十九條ニ依リ大正十四年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ命シ候條此段及通知候也

大正十四年十一月二十日

警視總監 太田 政弘

東京府會議長 中野勇治郎殿

會議第二日の十二月一日に平塚知事は菊池書記官並安井事務官を太田警視總



監は、市村官房主事、石井警務部長、鈴木保安部長、川村衛生部長、相川警務課長を夫々議場に紹介し、更に警視總監は、警視廳所管の豫算に關する大體に付いて説明をした。

十二月七日の會議に於て、中野議長は、昨六日午後八時十分 皇孫内親王殿下御誕生あらせられたるに付、奉賀言上の爲め平塚知事と同道して、宮中、東宮御所並久邇宮邸に伺候したる旨を報告した。而して十二月十二日の會議に於て、七名の委員を選定し、大井玄洞を委員長として賀表並賀牋を起草せしめ、滿場一致を以て謹んで之を可決した。而して中野議長が直に參内之を捧呈した。

(賀表)

臣勇治郎等謹ムテ言ウス

恭ク惟ミルニ

天皇陛下聖徳ハ祖宗ニ光リ稜威ハ洪荒ニ隆クマシマシ四時維レ順ヒ萬化用テ至ル臣勇治郎等誠歡誠喜頓首頓首伏シテ承ルニ吉月令辰

東宮ニ慶アリ

皇孫内親王殿下降誕アラシメタマフ祥瑞氤氳トシテ佳氣變黷タリ

神靈ハ蕃衍ノ福ヲ垂レ黎庶ハ和平ノ幸ヲ饗ケ上下欽仰シテ内外抃舞ス謹ムテ議ヲ定メ表ヲ奉シ賀ヲ陳シ以テ聞ス

大正十四年十二月十二日

東京府會議長 臣中野勇治郎等

謹 上

(賀牋)

恭ク惟ミルニ

皇太子殿下至徳精淵天瑞ヲ以テ應シ

妃殿下淑徳明婉地靈維レ感シ

内親王殿下降誕アラシメタマフ慶雲ハ宮闈ニ發レ祥氣ハ山河ニ罩メ頌聲ハ隆隆トシテ遠ヲ蔽ヒ歌思ハ洋洋トシテ道ニ匝ル臣勇治郎等謹ムテ議ヲ定メ牋ヲ上リ以テ天支ノ毓秀ヲ祝シタテマツル

大正十四年十二月十二日

東京府會議長 臣中野勇治郎等

誠歡誠喜頓首頓首 謹 上

この會議に於ける、特筆事項を次に掲げる。

一 府税の整理及警官住宅等に關する件



議員大久保源之丞は、十五年度豫算を見るに、徒らに消極的であつて無爲無策なるを遺憾とする。偶々稅收入に於て、社會政策的見地から、人事に關する周旋業、紹介業、木賃宿業、賣藥行商及營業人力車稅等を廢止せられたが、此等が果して社會政策上何程の效果があるか甚だ疑はしい。木賃宿業、人事に關する周旋業、紹介業の如きは、一面に於て公共團體が巨費を投じて、公營の施設をして居るから、個人の營業は、自然の淘汰を受けて近き將來に於て廢滅に歸すべき運命に在るものである。賣藥行商も亦同様で、文化生活日進の今日、行商人の賣藥を買て不時に備へる様者は殆んどあるまいと思ふ。營業人力車も交通機關の發達に伴つて、漸次衰滅の運命を辿りつゝあるのは事實である。斯く數へ來れば、今回提案せられた廢稅の社會的効果は誠に心細いものと考へる。徵稅上の社會政策は、今少しく積極的の意味がなければなるまいと思ふ。即ち有力なる財源を見出して、之を生産的施設に投ずるのが眞の社會政策であると信ずる。差向き思ひ浮んだ一例を擧ぐれば、「ラヂオ」聽取者に對し課稅する等は、有力なる問題であると思ふ。又、産業の振興を圖るの必要なるは言を俟たないが、陸上の生産に關しては暫らく之を措き、東京灣及小笠原島方面の水産獎勵は、最も意を注ぐ必要があると思ふ。當局は近き將來

に於て、水産試驗場でも設置して、獎勵に努力する者がないのであるか。又警察官吏の待遇は、現在他の官公吏と比較して劣つて居るとは認めないが、其の職務が如何にも繁劇で責任が重いから、せめては居住の安定を與へる必要があると思ふ。從來警察官には宿料を給して居るが、しかし、僅かな宿料に依て適當の住居を得ることは非常に困難である。現に支給しつゝある宿料が百餘萬圓とすれば、之を五箇年繼續として五百萬圓となる。之を以て市内に優に二千戸の警察官舎宅を建設することが出来る。若し十箇年繼續とすれば壹千萬圓であつて、四千戸の舎宅を建設することが出来るのである。之が財源は政府より低利資金を借入れる途もあるから、強ち困難の問題でない。斯くて居住の安定を與へたならば、其の結果として警察精神の充實となり、能率の増進となつて、頗る效果があること、信ずる。當局は之に對し如何に考へられるかと質問した。之に對し、先づ平塚知事が、地方稅の制度に關しては、目下政府に於て、折角調査研究中に屬し、近き將來に於て根本的の改正を發表せらるゝこと、信ずるから、本府としても、其の發表を俟つて夫々改訂せんことを期して居るが、差當り、程度の低い僅かなものではあるけれども、府會の意見等をも參酌して、數種の稅目に就て改廢を提案した次第である。又、水産



上の遺利開發に就ては、從來も國庫の補助を得て、小笠原島方面の漁業の發達獎勵に關して研究を重ねたので、決して等閑に付しては居らぬ。しかし、水産の開發に關しては、尙大なる問題が残つて居る様に思ふから、充分調査研究を要すること、思ふ。就ては、來年度に於て水産試験の爲め僅少の費用を提案したが、之に依て將來の方針樹立に關し調査して見たいと思ふ。其の結果或は水産試験場の設立を必要と認めれば、更に協賛を希ふ場合もあらうと思ふと答へた。次に石井警務部長は、警察官の居住の安定に關して、同情ある意見を發表せられたことは感激に堪へない。併し乍ら、此問題を實際に解決することは、中々困難であると考へる。「アパートメント」式のものとするか否や、各警察署毎に設置するや否や、或は一區一箇所位とすべきや否や等、費用の點と相俟つて、研究を要する事項が多いので、折角調査中であるから、何れ適當の案を得たる曉には、御協議を煩はすこともあらうと思ふと答へた。

## 二 滯納整理及脱税防止に關する件

議員有馬淺雄は、府税の滯納整理の爲め、昨年四十餘名の吏員を置いて整理に従事せしめ、其の成績が至極良好であつたといふことであるが、併し最近の調査に依れば、尙ほ市部に於て百拾萬圓餘郡部に於て百五拾八萬餘圓の巨額な滯納がある。これは如何にして整理せらるゝ見込であるか、懸賞を以て標語を募集せられた位の事では、整理が出来ないと思ふ。本年は如何なる方法を以て整理せらるゝ見込であるか、其の方針を承りたい。又、脱税防止の事であるが、自轉車に就て言へば、十三年度中の自轉車盜難數が八千三百二十五臺であつて、其中發見數は千百九十臺に過ぎない。殘七千百三十五臺は全く盜難に終つた數である。之に對する府税を見積ると約貳萬貳千百拾八圓が缺損となつた計算である。此外所在不明の自轉車が一萬八千八臺であつて、此府税額が五萬五千八百貳拾四圓の缺損である。これは一箇年度の缺損額であるが、府では十二年度に一回自轉車鑑札を附替へられたのみで、其の後一回も附替られないから、今後附替を行はれる迄は依然脱税が續くことになり、府税の缺損は累加することになる。殊に、單に府税のみならず、町村も附加税を課することが出来ないから、財政上甚だ迷惑するのである。府は何故今日迄附替を行はれなかつたか、今後何時行はれる見込であるか、其の邊の都合を承知したい。若し市町村に委託されば喜んで従事するであらう。又、畜犬税に就ても、五六割の脱税がある實況であつて、これは恐水病豫防注射の際に、警察と



連絡を取つて脱税を檢舉することが出来ると思ふ。當局の考は如何であるかと質問した。これに對し安井事務官は「滯納整理に關しては、昨年四十餘名の吏員を任命して、鋭意整理に努めた結果、本年六月迄に貳百貳拾八萬八千圓を整理し得たので、勿論充分とは言ひ難いが、從來に比して一進歩と考へて居る次第である。今一年間この人員を以て整理に盡して見たいと思ふ。其の結果に依ては、更に適當の方法を講ずるであらう。又、自轉車の件は質問の如く、去る十二年十二月十日に鑑札を改正して以來、既に二年有餘を經過して居るが、現在の鑑札は震災後匆忙の際に定めたものであるから、警視廳當局とも協議して改正する案を定め、目下注文中であるから、出來次第附替る筈である。畜犬税の事は、警視廳と連絡を計り、適當の方法を立てる計畫であるから、將來相當脱税を防止し得る見込である」と答へた。十二月二十三日議事終了を告げたので、平塚知事は簡單に挨拶を述べて會を閉じた。

議案 附諮問案、建議案

府第一號議案 大正十五年度府費ニ關スル市部郡部分擔及收入ノ割合……………可決

府第二號議案 大正十五年度東京府歳入歳出豫算書……………修正

府第三號議案 大正十五年度東京府目黒川改修及埋立工事費

歳入歳出豫算書……………可決

府第四號議案 起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法更正ノ件……………可決

府第五號議案 起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法更正ノ件……………可決

府第六號議案 大正十五年度東京府商工獎勵館歳入歳出豫算

書……………可決

府第七號議案 大正十五年度東京府功勞者表彰獎勵資金歳入

歳出豫算書……………可決

府第八號議案 大正十五年度東京府松澤病院基本金歳入歳出

豫算書……………可決

府第九號議案 大正十五年度東京府罹災救助基金歳入歳出豫

算書……………可決

府第十號議案 大正十五年度東京府住宅建設費貸付資金歳入

歳出豫算書……………可決



- 府第十一號議案 大正十五年度東京府小額生業費貸付資金歲入  
歲出豫算書……………可決
- 府第十二號議案 大正十五年度東京府家具工養成所資金歲入歲  
出豫算書……………可決
- 府第十三號議案 大正十五年度東京府慈惠救濟資金歲入歲出豫  
算書……………可決
- 府第十四號議案 大正十五年度東京府御大禮恩賜賑恤資金歲入  
歲出豫算書……………可決
- 府第十五號議案 大正十五年度東京府軍人遺家族救護基金歲入  
歲出豫算書……………可決
- 府第十六號議案 大正十五年度東京府恩賜男女青年團體事業獎  
勵資金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第十七號議案 大正十五年度東京府公立學校職員年功加俸資  
金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第十八號議案 大正十五年度東京府恩賜兒童就學獎勵資金歲  
入歲出豫算書……………可決

- 府第十九號議案 大正十五年度東京府小學校教員恩給基金歲入  
歲出豫算書……………可決
- 府第二十號議案 大正十五年度東京府小學校教員恩給金歲入歲  
出豫算書……………可決
- 府第二十一號議案 大正十五年度東京府小學校教員加俸資金歲入  
歲出豫算書……………可決
- 府第二十二號議案 大正十五年度東京府教育資金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第二十三號議案 大正十五年度東京府御大典記念育英資金歲入  
歲出豫算書……………可決
- 府第二十四號議案 大正十五年度東京府谷口育英資金歲入歲出豫  
算書……………可決
- 府第二十五號議案 大正十五年度東京府立學校基本金歲入歲出豫  
算書……………可決
- 府第二十六號議案 大正十五年度東京府第一中學校戰役記念獎學  
算書……………可決



- 府第二十七號議案 資金歳入歳出豫算書……………可決
- 大正十五年度東京府第一中學校武術獎勵資金
- 歳入歳出豫算書……………可決
- 府第二十八號議案 大正十五年度東京府第二中學校恩賜記念獎學
- 資金歳入歳出豫算書……………可決
- 府第二十九號議案 大正十五年度東京府第四中學校伏見宮博義王
- 殿下獎學資金歳入歳出豫算書……………可決
- 府第三十號議案 大正十五年度東京府第四中學校獎學資金歳入
- 歳出豫算書……………可決
- 府第三十一號議案 大正十五年度東京府織染學校校舍落成記念獎
- 學資金歳入歳出豫算書……………可決
- 府第三十二號議案 大正十五年度東京府園藝學校御下賜記念獎學
- 資金歳入歳出豫算書……………可決
- 府第三十三號議案 特別會計設置ノ件……………可決
- 府第三十四號議案 大正十五年度東京府美術館歳入歳出豫算書……………可決

- 府第三十五號議案 自大正<sup>七</sup>十五年度東京府土木費繼續年期及支出方
- 法中更正ノ件……………可決
- 府第三十六號議案 自大正<sup>八</sup>十五年度東京府土木費繼續年期及支出方
- 法中更正ノ件……………可決
- 府第三十七號議案 自大正<sup>七</sup>十五年度東京府土木費繼續年期及支出方
- 法……………可決
- 府第三十八號議案 自大正<sup>七</sup>十五年度東京府土木費繼續年期及支出方
- 法……………可決
- 府第三十九號議案 自大正<sup>十二</sup>十四年度東京府土木費繼續年期及支出方
- 法中更正ノ件……………可決
- 府第四十號議案 自大正<sup>十五</sup>十八年度東京府土木費繼續年期及支出方
- 法……………可決
- 府第四十一號議案 自大正<sup>十五</sup>十七年度東京府土木費繼續年期及支出方
- 法……………可決
- 府第四十二號議案 自大正<sup>二十三</sup>三十三年度東京府都市計畫事業費繼續年期
- 法……………可決



府第四十三號議案	自大正三十五年 至大正三十八年 度東京府上下水道補助費繼續年期 及支出方法	可決
府第四十四號議案	自大正三十五年 至大正三十八年 度東京府上下水道補助費繼續年期 及支出方法	可決
府第四十五號議案	豫算外府ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル件	可決
府第四十六號議案	豫算外府ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル件	可決
府第四十七號議案	自大正十五年 至大正十七年 度東京府教育費繼續年期及支出方 法	可決
府第四十八號議案	府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件	可決
府第四十九號議案	大正十四年度東京府歳入歳出追加豫算書	可決
府第五十號議案	大正十四年度府費ニ關スル市部郡部分擔及收 入ノ割合中改正ノ件	可決
府第五十一號議案	大正十四年度東京府歳入歳出追加豫算書	可決
府第五十二號議案	大正十四年度東京府松澤病院基本金歳入歳出 追加更正豫算書	可決
府第五十三號議案	大正十四年度東京府小學校教員恩給金歳入歳 出追加豫算書	可決
府第五十四號議案	大正十四年度東京府住宅建設費貸付資金歳入 歳出追加豫算書	可決
府第五十五號議案	起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法	可決
府第五十六號議案	大正十四年度東京府歳入歳出追加豫算書	可決
府第五十七號議案	大正十四年度府費ニ關スル市部郡部分擔及收 入ノ割合中改正ノ件	可決
府第五十八號議案	府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件	可決
府第五十九號議案	府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件	可決
府諮問第一號	都市計畫事業トシテ澁谷川改修ノ件	答申議決
府諮問第二號	都市計畫事業トシテ舊荒川ノ河川整理ノ件	答申議決
	大正十三年度東京府歳入歳出決算書	承認
	府參事會委任事項中改正建議案	可決



- 立會川・呑川・内川・蛇崩川府費支辨編入調査ニ關スル建議案……………可決
- 府立第六高等女學校敷地擴張ニ關スル建議案……………可決
- 庭園稅賦課ニ關スル建議案……………可決
- 女子師範學校並第二高等學校移轉ニ關スル建議案……………可決
- 白鬚橋千住大橋ノ中間ニ架橋ニ關スル建議案……………可決
- 諸車稅ヲ東京市特別稅ニ課稅權分與ニ關スル建議案……………可決
- 墨堤切下ケ道路新設ニ關スル建議案……………可決
- 神田上水及之ニ注入スル妙正寺善福寺ノ各支線府費支辨ニ編入調査ニ關スル建議案……………可決
- 篠崎運河着手促成ニ關スル建議案……………可決
- 東京府立高等女學校學則第十三條撤廢ニ關スル建議案……………可決

議決摘要

府第一號議案 大正十五年度府費ニ關スル市部郡部分擔及收入ノ割合……………可決

石神井川・谷端川府費支辨編入調査ニ關スル建議案……………可決

明治三十二年勅令第二百八十五號第五條ニ依リ大正十五年度府費ニ關スル市部郡部分擔及收入ノ割合左ノ通定ムルモノトス

分擔金	郡市	五分九厘
負擔金	郡市	四分九厘
	郡市	三分八厘

收入割合參考表

科	目	割合	標準
分擔	大正十五年度市郡割合	五分九厘	市郡
金	郡市	四分九厘	郡市
	郡市	三分八厘	郡市
	歳出當該科目分擔ノ割合		



科	目	大正十五年度		割	合	標	準
		市	郡				
負	擔	金	金	厘	厘		
		市	郡	分	分		
		三	六	八	二		
		厘	厘				
		歲出當該科目分擔ノ割合					

府第二號議案 大正十五年度東京府歲入歲出豫算書……………修正

歲入

經常部

- 第一款 財產收入 金壹萬貳百貳圓
- 第一項 不動產收入 金貳千貳百貳圓
- 第二項 動產收入 金八千圓
- 第二款 國庫下渡金 金百五拾萬四千八百五拾壹圓
- 第一項 警察費下渡金 金百五拾萬四千八百五拾壹圓
- 第三款 雜收入 金百四拾七萬八千參百參拾參圓
- 第四款 市郡分賦額 金千五百貳拾四萬八千四百九拾參圓
- (修正)金千五百貳拾五萬千八百九拾參圓
- 第一項 市郡分賦額 金千五百貳拾四萬八千四百九拾參圓

(修正理由) 歲出ノ修正ニ伴フニ由ル(調査委員意見)

(委員長片山久藏)

經常部合計金千八百貳拾四萬千八百七拾九圓

(修正)金千八百貳拾四萬五千貳百七拾九圓

臨時部

- 第一款 國庫補助金 金貳百五拾參萬九千九百壹圓
- 第一項 衛生及病院費補助金 金四萬千八百六拾壹圓
- 第二項 教育費補助金 金四千四百圓
- 第三項 史蹟天然記念物保存費補助金 金百圓
- 第四項 救育費補助金 金拾參萬四百八拾貳圓
- 第五項 勸業費補助金 金壹萬六千四百四拾四圓
- 第六項 市町村傳染病豫防費補助金 金七百圓
- 第七項 勸業補助費補助金 金千四百四拾參圓
- 第八項 社會事業補助費補助金 金四千參百九拾壹圓
- 第九項 土木費補助金 金百八拾壹萬百貳拾五圓



第十項 都市計畫事業費補助金 金五拾貳萬九千九百五拾五圓

第二款 財產賣拂代 金參拾圓

第一項 不動產賣拂代 金參拾圓

第三款 分擔金 金六拾貳萬千參百五拾九圓

第一項 土木費分擔金 金六拾貳萬千參百五拾九圓

四號九號國道改修費及千住大橋架替費ニ對スル東京市分擔金

第四款 負擔金 金拾參萬五千圓

第一項 受益者負擔金 金拾參萬五千圓

第五款 寄付金 金九萬參千百四拾五圓

第一項 土木費寄付金 金五千圓

第二項 勸業費寄付金 金八萬八千百四拾五圓

工業試驗場建設費寄付金八萬七千百四拾五圓畜產獎勵費寄付金千圓

臨時部合計金參百參拾八萬九千四百參拾五圓

歲入總計金貳千百六拾參萬千參百拾四圓

(修正)金貳千百六拾參萬四千七百拾四圓

市部 收入 金千百九拾參萬九千六百七拾八圓

內 (修正)金千百九拾四萬千四百七拾八圓

郡部 收入 金九百六拾九萬千六百參拾六圓

(修正)金九百六拾九萬參千貳百參拾六圓

歲出

經常部

第一款 警察費 金貳百四萬五千四百貳拾貳圓

第一項 俸給及諸給 金百五拾萬貳百貳圓

警部補四十六人月俸六拾四圓此金參萬五千參百貳拾八圓、巡查部長百二十六人月俸六拾圓此金九萬七千七百貳拾圓、巡查二百五十五人月俸五拾五圓三百五十八人月俸參拾貳圓此金參拾萬貳千七百圓、精勤加俸壹萬九千八百圓、衛生部所屬衛生技師十三人年俸貳千七百九圓二人年俸貳千五百圓九人年俸貳千圓此金五萬八千貳百拾七圓、衛生技師四十九人月俸百五拾圓九人月俸百圓此金九萬九千圓、警察技師二人年俸貳千五百圓此金五千圓、警察技師七人月俸百圓此金八千四百圓、保安部所屬警察技師十九人年俸貳千五百圓此金四萬七千五百圓、



警察技手百七十九人月俸百圓此金貳拾壹萬四千八百圓、警務部所屬警察技手一人月俸百圓此金千貳百圓、刑事部所屬警察技師一人年俸貳千圓、警察技手四人月俸百圓此金四千八百圓、官房所屬警察技師一人年俸貳千五百圓、警察技手二十人月俸百圓此金貳萬四千圓、運轉技手十五人月俸百圓此金壹萬八千圓、電信技手百四十八人月俸五拾參圓此金九萬四千百貳拾八圓、武術師範三十人月俸七拾五圓此金貳萬七千圓、書記官房所屬十一人月俸七拾參圓三十二人月俸五拾壹圓此金貳萬九千貳百貳拾圓、警務部所屬一人月俸七拾參圓六人月俸五拾壹圓此金四千五百四拾八圓、刑事部所屬十一人月俸五拾壹圓此金六千七百參拾貳圓、保安部所屬四十四人月俸五拾壹圓此金貳萬六千九百貳拾八圓、衛生部所屬六人月俸七拾參圓六人月俸五拾壹圓此金八千九百貳拾八圓、警視警部警部補巡查宿料七萬百六拾四圓、警察共濟組合給與金八千九百五拾七圓、其他手當旅費惠與諸傭給助

第二項 廳 費 金參拾八萬七千七百貳拾圓

第三項 警察機密費 金拾五萬七千五百圓

第二款 警察廳舍修繕費 金貳千七百七拾四圓

第一項 修繕費 金貳千七百七拾四圓

第三款 土木費 金六拾七萬五千百六拾參圓

第一項 道路橋梁費 金四拾六萬參千百參拾壹圓

第二項 治水堤防費 金貳拾壹萬貳千參拾貳圓

第四款 府會議諸費 金拾貳萬六百貳拾參圓

(修正)金拾貳萬千貳拾參圓

第一項 府會議費 金九萬參千四百拾八圓

(修正)金九萬參千八百拾八圓

(修正理由) 俸給及雜給ニ於テ増スニ由ル (調査委員意見) 委員長細谷鎌太郎

第二項 府參事會諸費 金貳萬七千貳百五圓

(附帶決議) 府會議員名譽職參事會費用辨償額及其ノ支給方法ヲ適當ニ改正

スルコトヲ參事會ニ一任ス (調査委員意見) 委員長細谷鎌太郎

第五款 衛生及病院費 金五拾六萬六千九拾圓

第一項 衛生諸費 金拾萬七千參百四拾八圓

第二項 松澤病院費 金參拾壹萬九千七百參拾壹圓



- 第三項 娼妓病院費 金九萬八千八百四拾七圓
  - 第四項 屠畜檢查費 金貳萬參千四百四拾壹圓
  - 第五項 獸疫豫防費 金壹萬六千七百貳拾參圓
  - 第六款 教育費 金四百七萬八千參拾八圓
    - 第一項 師範學校費 金六拾貳萬八千八百八圓
    - 第二項 中學校費 金七拾六萬貳千四百四拾壹圓
    - 第三項 高等女學校費 金四拾九萬貳千參百五拾六圓
    - 第四項 實業學校費 金七拾四萬參千五百八拾七圓
    - 第五項 學事諸費 金百四拾萬七千五百六圓
    - 第六項 小學校教員檢定費 金貳千六百四拾五圓
    - 第七項 講習費 金六千八百五拾八圓
    - 第八項 社會教育費 金壹萬四千四百七拾五圓
    - 第九項 給與 金壹萬九千六百六拾貳圓
- (附帶決議) 第六高等女學校及小松川高等女學校ハ現下ノ實狀ニ鑑ミ敷地甚タ狹隘ナリト認ム依ツテ前者ハ約六百坪後者ハ約四百坪ヲ買收其ノ他ノ方法ニ

依リ速ニ擴張セラレムコトヲ望ム(調査委員意見 委員長佐伯兼次郎)

(原案説明) 本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金五拾九萬八千六百貳圓ヲ増ス其ノ理由ハ師範學校規程改正ニ基ク三師範學校生徒諸費ノ増加並男子師範學校專攻科設置費及陸軍現役將校配屬令ニ依ル男子中等學校ノ兵式教練振作費ノ増加其ノ他既定計畫ニ基ク學級増加ニ伴フ諸費青山師範學校附屬小學校ノ學級増加豐島師範學校二部學級増加園藝學校農林學校ノ組織變更費郡立移管學校ノ改善充實費小學校教員恩給金補充費等ニ於テ多少ノ増加ヲ要スルニ由ル

- 第七款 教育費 金七拾九萬千八百貳拾壹圓
  - 第一項 救助費 金七拾九萬千八百貳拾壹圓
- 第八款 諸達書及揭示諸費 金壹萬貳千圓
  - 第一項 令達諸費 金壹萬貳千圓
- 第九款 勸業費 金貳拾參萬五千五百拾貳圓
  - 第一項 勸業會費 金參千九百七拾五圓
  - 第二項 蠶業取締所費 金壹萬六千貳百五拾貳圓
  - 第三項 蠶業試驗場費 金貳萬七百貳圓
  - 第四項 種畜場費 金參萬四千百五拾四圓



- 第五項 農事講習所費 金壹萬貳千五百貳拾八圓
- 第六項 工業試驗場費 金八千五百拾四圓
- 第七項 勸業諸費 金拾參萬九千參百八拾七圓
- 第十款 府費取扱費 金四千百圓
- 第一款 金庫諸費 金四千百圓
- 第二款 府廳舍修繕費 金七千百參拾參圓
- 第一項 修繕費 金七千百參拾參圓
- 第三款 衆議院議員選舉費 金千五拾圓
- 第一項 選舉費 金千五拾圓
- 第三款 府會議員選舉費 金九百四拾圓
- 第一項 選舉費 金九百四拾圓
- 第四款 府吏員職員費 金五拾八萬七千參百九拾圓
- 第一項 吏員職員費 金五拾八萬七千參百九拾圓
- 第五款 廳費 金貳拾四萬四千貳百八拾七圓
- (修正)金貳拾四萬七千貳百八拾七圓



第一項 本廳費 金貳拾壹萬九千貳百八拾七圓

(修正)金貳拾貳萬貳千貳百八拾七圓

(修正理由) 府稅其ノ他調査費ニ於テ參千圓ヲ増スニ由ル(調査委員意見 委員長細谷鎌太郎)

第二項 交際費 金貳萬五千圓

第六款 財產費 金拾圓

第一項 管理費 金拾圓

第七款 土地收用費 金貳千參百參拾貳圓

第一項 審查諸費 金貳千貳百參拾貳圓

第二項 執行費 金百圓

第六款 神社費 金參百四拾四圓

第一項 神社費 金百貳拾四圓

第二項 郷社費 金貳百貳拾圓

第五款 史蹟天然記念物保存費 金參千百四拾圓

第一項 保存費 金參千百四拾圓

第三款 府統計費 金六千八百四拾四圓



第一項	統計	費	金六千八百四拾四圓
第三款	地方獎勵	費	金壹萬貳千九百拾六圓
第一項	獎勵	費	金壹萬貳千九百拾六圓
第三款	市町村吏員懲戒審査會費		金參圓
第一項	審査	諸費	金參圓
第三款	補償鑑定	費	金貳圓
第一項	鑑定	人費	金貳圓
第三款	社會事業調查費		金五千八百八拾五圓
第一項	調查	費	金五千八百八拾五圓
第三款	都市計畫	畫費	金六萬五千六百六拾四圓
第一項	下水	調查費	金貳萬四千貳百拾八圓
第二項	土地區劃整理	調查費	金參萬參千五百八拾圓
第三項	河川整理	調查費	金七千八百六拾六圓
第三款	豫備	費	金參萬圓
第一項	豫備	費	金參萬圓

經常部合計金九百四拾九萬八千八百八拾參圓  
 (修正)金九百五拾萬貳千貳百八拾參圓

臨時部

第一款	警察廳舍建築費		金貳拾五萬七千圓
第一項	建築	費	金貳拾五萬七千圓
第二款	土木	費	金五萬四千參百參拾八圓
第一項	道路	橋梁費	金五萬四千參百參拾八圓
第三款	治水	分擔金	金參拾九萬七千貳百圓
第一項	河川改良	費分擔金	金參拾九萬七千貳百圓
第四款	河川改良工事附帶工事費		金九千百拾九圓
第一項	道路	橋梁費	金九千百拾九圓
第五款	都市計畫	事業費	金貳萬五千五百圓
第一項	編入	金	金貳萬五千五百圓
第六款	土地區劃整理	補助費	金八萬六千七百貳拾圓
第一項	補助	費	金八萬六千七百貳拾圓



第七款 看護婦組合補助費 金貳千五百圓

第一項 補助費 金貳千五百圓

第八款 市町村傳染病豫防補助費 金四千貳百圓

第一項 傳染病豫防補助費 金四千圓

第二項 トラホーム豫防補助費 金貳百圓

第九款 教育費 金拾八萬七千六百四拾八圓

第一項 師範學校費 金參萬參千七百六拾五圓

第二項 中學校費 金壹萬貳千五百四拾八圓

第三項 高等女學校費 金七萬九千八百八拾五圓

第四項 實業學校費 金六萬貳千五百五拾圓

第十款 教育補助費 金參拾萬七千貳百貳拾圓

第一項 補助費 金參拾萬七千貳百貳拾圓

東京府教育會補助貳千圓、實業教育補助貳萬四千貳百貳拾圓、市町村立小學校

教育補助費貳萬五千圓、私立中等學校補助費貳拾五萬六千圓

第七款 町村警備補助費 金七百壹圓

第一項 補助費 金七百壹圓

南千住町及千住町補助

第三款 勸業費 金六萬貳千六百八拾六圓

第一項 建築費 金五千九百九拾圓

第二項 助成費 金五萬六千六百九拾六圓

同業組合及工業組合助成費壹萬參千五百圓、副業助成費五千六百九拾六圓、開

墾助成費五百圓、島嶼產業改良助成費四千圓、出荷組合助成費參千圓、乾繭取引

助成費參萬圓

第三款 勸業補助費 金參萬七千六百六拾圓

第一項 補助費 金參萬七千六百六拾圓

物産共進會補助費貳千八百八拾圓、小笠原島航海補助費壹萬九千圓、產業組合

中央會東京支會補助費千五百圓、造林補助費五千八百八拾圓、伊豆七島航海補助

費五千圓、東京府山林會補助費八百圓、水産會補助費千八百圓、メートル法獎勵

補助費千圓

第四款 府廳舍建築費 金九千圓



第一項 建築費 金九千圓

第五款 地方改良事業補助費 金貳千五百圓

第一項 補助費 金貳千五百圓

第六款 社會事業補助費 金六萬五千五百圓

第一項 補助費 金六萬五千五百圓

第七款 神職會補助費 金八百圓

第一項 補助費 金八百圓

第六款 府債費 金貳千七百七拾圓

第一項 元金償還 金貳千六百六拾壹圓

第二項 利子 金六百九圓

第五款 警察廳舍建築費本年度支出額 金貳拾萬五千圓

第一項 建築費本年度支出額 金貳拾萬五千圓

第三款 土木費本年度支出額 金參百五拾四萬七千四百四拾八圓

第一項 道路橋梁費本年度支出額 金參百四拾六萬五百九拾貳圓

第二項 治水堤防費本年度支出額 金八萬六千八百五拾六圓

第三款 都市計畫事業費本年度支出額 金四百九拾貳萬五千貳百貳拾五圓

第一項 道路改修費本年度支出額 金四百八拾六萬千七百貳拾五圓

第二項 運河開鑿費本年度支出額 金六萬參千五百圓

第三款 河川改良工事附帶工事費本年度支出額 金拾八萬貳千五拾壹圓

第一項 道路橋梁費本年度支出額 金拾八萬貳千五拾壹圓

第三款 上下水道補助費本年度支出額 金拾壹萬五千七百五拾圓

第一項 補助費本年度支出額 金拾壹萬五千七百五拾圓

第三款 教育費本年度支出額 金百五拾五萬七千七百圓

第一項 中學校費本年度支出額 金貳拾六萬七千九百圓

第二項 高等女學校費本年度支出額 金貳拾五萬參千七百五拾圓

第三項 實業學校費本年度支出額 金百參萬六千五百圓

第三款 勸業費本年度支出額 金八萬七千四百四拾五圓

第一項 工業試驗所建築費本年度支出額 金八萬七千四百四拾五圓

臨時部合計金千貳百拾參萬貳千四百參拾壹圓

歲出總計金貳千百六拾參萬千參百拾四圓



(修正)金貳千百六拾參萬四千七百拾四圓

市部 負擔 金千百九拾參萬九千六百七拾八圓

(修正)金千百九拾四萬千四百七拾八圓

内 郡部 負擔 金九百六拾九萬千六百參拾六圓

(修正)金九百六拾九萬參千貳百參拾六圓

府第三號議案 大正十五年度東京府目黒川改修及埋立工事

費歳入歳出豫算書……………可 決

歳 入

第一款 目黒川改修及埋立工事費 金貳百參拾六萬參千六百七拾五圓

第一項 普通經濟繰入金 金貳萬五千五百圓

第二項 府 債 金貳百參拾參萬八千七百七拾五圓

歳入總計金貳百參拾六萬參千六百七拾五圓

歳 出

第一款 目黒川改修及埋立工事費 金貳百參拾六萬參千六百七拾五圓

第一項 目黒川改修工事費本年度支出額 金百拾參萬九千參百七拾五圓

第二項 埋立工事費本年度支出額 金百拾八萬千八百圓

第三項 府 債 費 金四萬貳千五百圓

歳出總計金貳百參拾六萬參千六百七拾五圓

府第四號議案 起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法更正ノ

件……………可 決

都市計畫事業費ノ中目黒川改修費ニ充ツル起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法

(大正十三年通常會 府第三十九號議決)中左ノ通更正スルモノトス

第一條ヲ左ノ通改ム

都市計畫事業費ノ中目黒川改修費ニ充ツル爲メ銀行其ノ他ヨリ左ノ通借入ル

ルモノトス

大正十四年度 金參拾萬圓

大正十五年度 金百拾參萬九千參百七拾五圓

大正十六年度 金百貳拾萬六千六百貳拾五圓



大正十七年度 金貳拾萬七千四百拾七圓  
 大正十八年度 金貳拾壹萬千八百五拾八圓  
 大正十九年度 金七萬六千五百九拾圓  
 第三條中大正二十一年度償還額ヲ左ノ通改ム  
 大正二十一年度 金貳百九拾萬八百拾九圓

府第五號議案 起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法更正ノ件……可 決

土木費中品川海面埋立工事費ニ充ツル起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法(大正十四年通常會府第 四十號議決)中左ノ通更正スルモノトス  
 第一條ヲ左ノ通改ム

土木費中品川海面埋立工事費ニ充ツル爲メ銀行其ノ他ヨリ左ノ通借入ルルモノトス  
 大正十四年度 金貳拾萬圓  
 大正十五年度 金百拾九萬八千八百圓  
 大正十六年度 金百拾貳萬參千參百九拾八圓

第三條中償還額ヲ左ノ通改ム

大正二十年度 金貳百五拾貳萬貳千九拾八圓

府第六號議案 大正十五年度東京府商工獎勵館歲入歲出豫

算書……………可 決

歲 入

第一款 商工獎勵館收入 金拾參萬六百貳拾四圓  
 第一項 普通經濟線入金 金八萬五千四百貳拾八圓  
 第二項 府吏員職員納付金 金參百九拾壹圓  
 第三項 雜 收 入 金參萬八千七百五圓  
 第四項 寄 付 金 金六千百圓  
 歲入合計金拾參萬六百貳拾四圓

歲 出

第一款 商工獎勵館費 金拾參萬六百貳拾四圓  
 第一項 俸 給 及 諸 給 金八萬五千九百九拾八圓



第二項 賄 費 金四萬貳千九百七拾六圓  
 第三項 建 築 費 金千六百五拾圓  
 歲出合計金拾參萬六百貳拾四圓

府第七號議案 大正十五年度東京府功勞者表彰獎勵資金

歲入歲出豫算書……………可 決

府第八號議案 大正十五年度東京府松澤病院基本金歲入

歲出豫算書……………可 決

府第九號議案 大正十五年度東京府罹災救助基金歲入歲

出豫算書……………可 決

府第十號議案 大正十五年度東京府住宅建設費貸付資金

歲入歲出豫算書……………可 決

府第十一號議案 大正十五年度東京府小額生業費貸付資金

歲入歲出豫算書……………可 決

府第十二號議案 大正十五年度東京府家具工養成所資金歲

入歲出豫算書……………可 決

府第十三號議案 大正十五年度東京府慈惠救濟資金歲入歲

出豫算書……………可 決

府第十四號議案 大正十五年度東京府御大禮恩賜賑恤資金

歲入歲出豫算書……………可 決

府第十五號議案 大正十五年度東京府軍人遺家族救護基金

歲入歲出豫算書……………可 決

府第十六號議案 大正十五年度東京府恩賜男女青年團體事

業獎勵資金歲入歲出豫算書……………可 決

府第十七號議案 大正十五年度東京府公立學校職員年功加

俸資金歲入歲出豫算書……………可 決



- 府第十八號議案 大正十五年度東京府恩賜兒童就學獎勵資金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第十九號議案 大正十五年度東京府小學校教員恩給基金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第二十號議案 大正十五年度東京府小學校教員恩給金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第二十一號議案 大正十五年度東京府小學校教員加俸資金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第二十二號議案 大正十五年度東京府教育資金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第二十三號議案 大正十五年度東京府御大典記念育英資金歲入歲出豫算書……………可決

- 府第二十四號議案 大正十五年度東京府谷口育英資金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第二十五號議案 大正十五年度東京府立學校基本金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第二十六號議案 大正十五年度東京府第一中學校戰役記念獎學資金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第二十七號議案 大正十五年度東京府第一中學校武術獎勵資金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第二十八號議案 大正十五年度東京府第二中學校恩賜記念獎學資金歲入歲出豫算書……………可決
- 府第二十九號議案 大正十五年度東京府第四中學校伏見宮博義王殿下獎學資金歲入歲出豫算書……………可決



府第三十號議案 大正十五年度東京府第四中學校獎學資金

歲入歲出豫算書……………可決

府第三十一號議案 大正十五年度東京府織染學校校舍落成記念獎學資金歲入歲出豫算書……………可決

府第三十二號議案 大正十五年度東京府園藝學校御下賜記念獎學資金歲入歲出豫算書……………可決

府第三十三號議案 特別會計設置ノ件……………可決

東京府美術館ニ關スル經費ハ之ヲ特別會計トシ普通經濟編入金同館使用料及其

ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ歲出ニ充テ尙同館創立資金ノ剩餘アリタルトキハ之ヲ本會計ニ繰入ルルモノトシ大正十五年度ヨリ之ヲ施行ス

(原案説明) 大正十五年四月ヨリ開館スヘキ東京府美術館ハ福岡市佐藤慶太郎ヨリノ寄付金ニ依リ建設セラレヘキモノニシテ美術工藝品ノ展覽其ノ他美術工藝ノ振興ヲ目的トシ其ノ經營維持ハ之ヲ普通經濟ト分別スルヲ適當トスルニ由ル

府第三十四號議案 大正十五年度東京府美術館歲入歲出豫算

書……………可決

歲入

第一款 美術館收入 金貳萬五千四百六拾貳圓

第一項 普通經濟繰入金 金壹萬四千六拾六圓

第二項 使用料 金壹萬千參百九拾五圓

第三項 美術館創立資金繰入金 金壹圓

歲入合計金貳萬五千四百六拾貳圓

歲出

第一款 美術館費 金貳萬五千四百六拾貳圓

第一項 俸給及諸給 金壹萬七千八百拾參圓

第二項 館費 金六千六百四拾八圓

第三項 積立金 金千壹圓

歲出合計金貳萬五千四百六拾貳圓



府第三十五號議案

自大正七年度 東京府土木費繼續年期及支

出方法中更正ノ件……………可決

既定額金八百參拾四萬六千七百七拾九圓

一金八百五拾萬六千七百七拾九圓

土木費中道路改修費

内譯

既定額金九拾貳萬四千貳百四拾七圓

金百八萬四千貳百四拾七圓

大正十五年度支出額

右一號國道改修工事ハ土地買收竝地上物件移轉補償費ニ於テ不足ヲ告クルニ依  
リ支出額ヲ更正スルモノトス

府第三十六號議案

自大正八年度 東京府土木費繼續年期及支

出方法中更正ノ件……………可決

既定

自大正十五年 東京府土木費繼續年期及支出方法

更正 自大正八年度 東京府土木費繼續年期及支出方法

自大正十六年度

東京府土木費繼續年期及支出方法

既定額金參百九拾九萬六千參百六拾壹圓

一金五百貳拾貳萬千六百八拾貳圓

土木費中道路改修費

内譯

既定額金七拾七萬貳千四百四拾貳圓

金百七萬貳千四百四拾貳圓

大正十四年度支出額

既定額金百四拾貳萬千四百貳拾四圓

金百八拾四萬六千七百四拾五圓

大正十五年度支出額

既定額金〇

金五拾萬圓

大正十六年度支出額

右七號國道及九號國道改修工事ハ幅員擴張ノ爲メ土地買收竝地上物件補償費及  
工事費ノ不足ヲ生スルヲ以テ之カ計畫變更ニ伴フ年度割ヲ更正スルモノトス

府第三十七號議案

自大正十五年度 東京府土木費繼續年期及支

出方法……………可決

一金參拾參萬八千貳百五拾七圓

土木費中道路改修費



内 譯

金四萬五千圓 大正十五年度支出額  
 金拾七萬圓 大正十六年度支出額  
 金拾貳萬參千貳百五拾七圓 大正十七年度支出額  
 右府縣道第一號東京厚木線ハ幅員狹隘ニシテ屈曲甚シキ箇所アリ之カ改修ヲ要スル處事業ノ都合上繼續費トシテ其ノ完成ヲ期セムトス

府第三十八號議案

自大正十五年度 至大正十七年度 東京府土木費繼續年期及支

出方法

可 決

一金貳拾六萬貳千參百參拾圓

土木費中道路改修費

内 譯

金四萬圓 大正十五年度支出額  
 金拾萬圓 大正十六年度支出額  
 金拾貳萬貳千參百參拾圓 大正十七年度支出額  
 右府縣道第七號吾孀行德線ハ幅員狹隘ニシテ坂路急峻ナル箇所アリ之カ改修ヲ

要スル處事業ノ都合上繼續費トシテ其ノ完成ヲ期セムトス

府第三十九號議案

自大正十二年度 至大正十四年度 東京府土木費繼續年期及支

出方法中更正ノ件

可 決

既定 自大正十二年度 至大正十四年度 東京府土木費繼續年期及支出方法  
 更正 自大正十二年度 至大正十五年度 東京府土木費繼續年期及支出方法

既定額金七拾七萬八千參百八拾圓

一金參萬七千八百四拾圓

土木費中橋梁架設費

内 譯

既定額金〇  
 金貳拾五萬九千四百六拾圓 大正十五年度支出額  
 右千住大橋架換工事ハ軌道布設ニ依ル幅員擴張ヲ爲サントスル所既定繼續年度内ニ工事完了セサルヲ以テ年度割ヲ更正スルモノトス

府第四十號議案

自大正十五年 至大正十八年度 東京府土木費繼續年期及支



出方法.....可決

一金六拾六萬五千九百貳拾參圓 土木費中橋梁架設費

内 譯

金千參百貳拾五圓 大正十五年度支出額

金貳拾壹萬貳千圓 大正十六年度支出額

金貳拾貳萬八千八百八拾圓 大正十七年度支出額

金貳拾貳萬四千四百拾八圓 大正十八年度支出額

右九號國道戶田橋ハ架換ヲ要スル處事業ノ都合上繼續費トシテ其ノ完成ヲ期セムトス

府第四十一號議案 自大正十五年度 東京府土木費繼續年期及支

出方法.....可決

一金五拾參萬四千百圓 土木費中橋梁架設費

内 譯

金拾萬四千八百貳圓 大正十五年度支出額

金貳拾壹萬五千參百七圓 大正十六年度支出額

金貳拾壹萬參千九百九拾壹圓 大正十七年度支出額

右ハ葛西橋ヲ新架セムトスル處事業ノ都合上繼續費トシテ其ノ完成ヲ期セムトス

府第四十二號議案 自大正二十三年度 東京府都市計畫事業費繼

續年期及支出方法中更正ノ件.....可決

既定 自大正二十三年度 東京府都市計畫事業費繼續年期及支出方法

更正 自大正二十年度 東京府都市計畫事業費繼續年期及支出方法

一金四千參百八拾八萬五千四百五拾貳圓 都市計畫事業費中道路改修費

内 譯

既定額金參百八拾六萬千七百貳拾五圓 大正十五年度支出額

金四百八拾六萬千七百貳拾五圓 大正十五年度支出額

既定額金四百貳萬七千六百九拾四圓

金五百六拾壹萬九千五百參拾參圓 大正十六年度支出額



既定額金四百貳拾六萬參千六拾五圓  
大正十七年度支出額

金五百八拾五萬四千九百四圓  
既定額金參百參拾八萬參千貳百六拾八圓  
大正十八年度支出額

金五百貳拾萬五千七百八圓  
既定額金參百參拾六萬九千九百九拾八圓  
大正十九年度支出額

金五百拾九萬貳千貳百七拾八圓  
既定額金參百參拾九萬五千九百貳拾參圓  
大正二十年度支出額

金五百貳拾壹萬七千七百六拾參圓  
既定額金參百四拾萬八千七百參拾圓  
大正二十一年度支出額

金〇  
既定額金參百四拾壹萬四千七百八拾六圓  
大正二十二年度支出額

金〇  
既定額金貳百八拾貳萬七千五百貳拾貳圓  
大正二十三年度支出額

右環狀線放射線道路改修工事ハ事業ノ都合上線上施行ノ爲年度割ヲ更正スルモ

ノトス

府第四十三號議案

自大正三十五年度至大正三十八年度東京府上下水道補助費繼續

年期及支出方法……………可決

一金貳百貳拾參萬七千五百圓

上下水道補助費

內 譯

金七千五百圓  
大正十五年度支出額

金五萬圓  
大正十六年度支出額

金八萬圓  
大正十七年度支出額

金拾萬圓  
大正十八年度支出額

金拾萬圓  
大正十九年度支出額

金拾萬圓  
大正二十年度支出額

金拾萬圓  
大正二十一年度支出額

金拾萬圓  
大正二十二年支出額

金拾萬圓  
大正二十三年度支出額



金拾萬圓	大正二十四年度支出額
金拾萬圓	大正二十五年度支出額
金拾萬圓	大正二十六年度支出額
金拾萬圓	大正二十七年度支出額
金拾萬圓	大正二十八年度支出額
金拾萬圓	大正二十九年度支出額
金拾萬圓	大正三十年度支出額
金拾萬圓	大正三十一年度支出額
金拾萬圓	大正三十二年度支出額
金拾萬圓	大正三十三年度支出額
金拾萬圓	大正三十四年度支出額
金拾萬圓	大正三十五年度支出額
金拾萬圓	大正三十六年度支出額
金拾萬圓	大正三十七年度支出額
金拾萬圓	大正三十八年度支出額

右ハ北豊島郡長管理ノ町村組合荒玉水道ノ上水道敷設費ニ對シ補助セントスル  
處財政ノ都合上繼續費トシテ之カ補助ヲ爲サムトス

府第四十四號議案

自大正十五年度  
至大正二十六年  
度東京府上下水道補助費繼續

年期及支出方法……………可決

一金拾五萬六千貳百五拾圓

上下水道補助費

内譯

金貳千貳百五拾圓	大正十五年度支出額
金壹萬四千圓	大正十六年度支出額
金壹萬四千圓	大正十七年度支出額
金壹萬四千圓	大正十八年度支出額
金壹萬四千圓	大正十九年度支出額
金壹萬四千圓	大正二十年度支出額
金壹萬四千圓	大正二十一年度支出額
金壹萬四千圓	大正二十二年度支出額



金壹萬四千圓  
金壹萬四千圓  
金壹萬四千圓

大正二十三年度支出額  
大正二十四年度支出額  
大正二十五年度支出額  
大正二十六年支出額

右ハ八王子市經營ノ上水道敷設費ニ對シ補助セムトスル處財政ノ都合上繼續費トシテ之カ補助ヲ爲サムトス

府第四十五號議案 豫算外府ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル

件……………可決

北豐島郡長管理ニ屬スル町村組合荒玉水道工事ニ對スル補助金交付ニ關シテハ當該繼續費年度割ノ範圍内ニ於テ年度開始前補助金交付ノ契約ヲ締結スルコトヲ得ルモノトス

(原案説明) 水道事業ニ對スル補助金交付ノ確否ハ其ノ事業ノ施行上多大ノ影響アルヲ以テ豫メ該補助金ノ交付ニ關シ指令ヲナサムトスルニ由ル

府第四十六號議案 豫算外府ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル

件……………可決

八王子市水道工事ニ對スル補助金交付ニ關シテハ當該繼續費年度割ノ範圍内ニ於テ年度開始前補助金交付ノ契約ヲ締結スルコトヲ得ルモノトス  
(原案説明) 水道事業ニ對スル補助金交付ノ確否ハ其ノ事業ノ施行上多大ノ影響アルヲ以テ豫メ該補助金ノ交付ニ關シ指令ヲナサムトスルニ由ル

府第四十七號議案 自大正十五年度 東京府教育費繼續年期及支

至大正十七年度 出方法……………可決

一金八萬八千九百圓

教育費 中 建築費

内 譯

金四萬七千七百圓  
金壹萬千圓  
金參萬貳百圓

大正十五年度支出額  
大正十六年度支出額  
大正十七年度支出額

右ハ府立中野實業女學校組織變更ニ依リ校舍増築ノ要アルヲ以テ三箇年度ノ繼續事業トシテ其ノ完成ヲ期セムトス



府第四十八號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件……………可決

府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別中左ノ通改正シ大正十五年度ヨリ之ヲ施行スルモノトス市部會議決事件中神社費ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

在郷軍人會補助費 但市内ノ在郷軍人會ニ關スルモノ  
(原案説明) 市部ニ於ケル在郷軍人會ニ對スル補助費ハ市部負擔トナスヲ適當ナリト認ムルニ由ル

府第四十九號議案 大正十四年度東京府歳入歳出追加豫算書……………可決

第六款	分	擔	金	金參拾萬圓
第一項	土木費	分擔	金	金參拾萬圓

九號國道改修工事費東京市分擔金

臨時部合計金參拾萬圓

歳入總計金參拾萬圓

歳出  
臨時部

第七款 土木費本年度支出額 金參拾萬圓

第一項 道路橋梁費本年度支出額 金參拾萬圓

九號國道改修工事費支出額

臨時部合計金參拾萬圓

歳出總計金參拾萬圓

府第五十號議案 大正十四年度府費ニ關スル市部郡部分擔及收入割合中改正ノ件……………可決

明治三十二年勅令第二百八十五號第五條ニ依ル大正十四年度府費ニ關スル市部郡部分擔及收入割合中左ノ通改正スルモノトス



市部郡部分擔ノ割合中左ノ一項ヲ加フ

雜出

郡市 五分一厘  
四分九厘

市部郡部收入ノ割合中左ノ一項ヲ加フ

繰入金

郡市 七分一厘  
二分九厘

府第五十一號議案 大正十四年度東京府歳入歳出追加豫算書……可決

歳入

經常部

第四款 市郡分賦額 金五萬四千九百參拾壹圓

第一項 市郡分賦額 金五萬四千九百參拾壹圓

經常部合計金五萬四千九百參拾壹圓

臨時部

第一款 國庫補助金 金六萬參千九百六拾八圓

第一項 衛生及病院費補助金 金六萬參千九百六拾八圓

第七款 繰入金 金六萬參千九百六拾九圓

第一項 衛生及病院費繰入金 金六萬參千九百六拾九圓

臨時部合計金拾貳萬七千九百參拾七圓

歳入總計金拾八萬貳千八百六拾八圓

歳出

經常部

第六款 教育費 金五萬百九拾貳圓

第五項 學事諸費 金五萬百九拾貳圓

第七款 雜出 金四千七百參拾九圓

第一項 國庫補助返納金 金四千七百參拾九圓

經常部合計金五萬四千九百參拾壹圓

臨時部

第三款 衛生及病院費 金拾貳萬七千九百參拾七圓

第二項 精神病院建築費 金拾貳萬七千九百參拾七圓

臨時部合計金拾貳萬七千九百參拾七圓

歳出總計金拾八萬貳千八百六拾八圓



府第五十二號議案 大正十四年度東京府松澤病院基本金歳入

歳出追加更正豫算書……………可決

府第五十三號議案 大正十四年度東京府小學校教員恩給金歳入

入歳出追加豫算書……………可決

府第五十四號議案 大正十四年度東京府住宅建設費貸付資金

歳入歳出追加豫算書……………可決

府第五十五號議案 起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法……………可決

第一條 財團法人文化普及會ニ對スル「アパートメントハウス」建築資金トシテ大正十四年度ニ於テ金八萬九千圓ヲ起債シ大藏省預金部ノ引受ヲ受クルモノトス

第二條 公債ノ引受ニ對シテハ記名債券ヲ發行ス

前項ノ債券ハ額面五百圓千圓ノ二種トシ債券様式ハ知事之ヲ定ム  
債券發行ノ價格ハ額面金額ト同額トス

第三條 公債ノ利子ハ一箇年百分ノ四・八トシ毎年九月一日、三月一日ノ二期ニ於テ各其ノ日迄前半箇年ニ屬スル分ヲ支拂フモノトス但シ一期ニ滿タサル利息ノ計算ハ借入ノ際ハ現金拂込ノ翌日ヨリ償還ノ際ハ支拂ノ當日迄日割計算ニ依ルモノトス

第四條 公債元金ハ大正十五年三月三十一日迄据置キ大正十五年度ヨリ大正三十一年度迄ニ於テ左ノ通償還スルモノトス但シ經濟ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲スコトアルヘシ

大正十五年度	金參千圓
大正十六年度	金四千圓
大正十七年度	金四千圓
大正十八年度	金四千圓
大正十九年度	金四千圓
大正二十年度	金四千圓
大正二十一年度	金四千圓
大正二十二年度	金五千圓



大正二十三年度 金五千圓  
 大正二十四年度 金五千圓  
 大正二十五年度 金五千五百圓  
 大正二十六年度 金六千圓  
 大正二十七年度 金六千圓  
 大正二十八年度 金七千圓  
 大正二十九年度 金七千圓  
 大正三十年度 金七千五百圓  
 大正三十一年度 金八千圓

第五條 公債元金ハ債券ト引換ニ之ヲ支拂フモノトス

第六條 第四條ノ償還及第三條ノ利子仕拂財源ハ財團法人文化普及會ニ對スル貸付金ノ償還元利金及一般歳入ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

府第五十六號議案 大正十四年度東京府歳入歳出追加豫算書……可 決

歳 入

經常部

第二款 國庫下渡金 金貳萬貳千八百參拾壹圓

第一項 警察費下渡金 金貳萬貳千八百參拾壹圓

第四款 市郡分賦額 金五拾壹萬參千四百九拾六圓

第一項 市郡分賦額 金五拾壹萬參千四百九拾六圓

經常部合計金五拾參萬六千參百貳拾七圓

臨時部

第一款 國庫補助金 金拾六萬七千九百九拾壹圓

第八項 土木費補助金 金拾六萬七千九百九拾壹圓

臨時部合計金拾六萬七千九百九拾壹圓

歳入總計金七拾萬四千參百拾八圓

歳 出

經常部

第一款 警察費 金參萬八千五拾貳圓

第一項 俸給及諸給 金參萬八千五拾貳圓



(原案説明) 精勤加俸及普通恩給並退職給與金受領者増加ノ爲既定豫算ニ不足ヲ告クルニ由ル

第十四款 府吏員職員費 金參千貳百拾九圓

第一項 吏員職員費 金參千貳百拾九圓

經常部合計金四萬千貳百七拾壹圓

臨時部

第二款 土木費 金六拾六萬參千四拾七圓

第一項 道路橋梁費 金五萬六千六圓

水害復舊工事費

第二項 治水堤防費 金六拾萬七千四拾壹圓

同上

臨時部合計金六拾六萬參千四拾七圓

歲出總計金七拾萬四千參百拾八圓

府第五十七號議案 大正十四年度府費ニ關スル市部郡部分擔

及收入ノ割合中改正ノ件……………可決

明治三十二年勅令第二百八十五號第六條ニ依ル大正十四年度府費ニ關スル市部郡部分擔及收入ノ割合中左ノ通改正スルモノトス  
市部郡部收入ノ割合中左ノ一項ヲ加フ

國庫補助金ノ内水害復舊土木費補助金 市 五分一厘 郡 四分九厘

(原案説明) 本件分擔ノ割合ハ現在ノ本款收入割合ニ依ルトキハ事業費ニ比シ甚シキ收入割合ノ相違ヲ來スヲ以テ歲出土木費ノ割合ニ依ルヲ適當ナリト認ムルニ由ル

府第五十八號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正

ノ件……………可決

府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別中左ノ通改正シ大正十四年度ヨリ之ヲ施行スルモノトス  
郡部會議決事件中震災町村貸付資金ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

店舖建設費貸付資金

(原案説明) 震災地木造店舖及店舖向住宅ヲ建設スル場合ニ大藏省預金部ヨリ資金ノ融通ヲ受ケ産業組合ヲ經テ貸付金ヲ爲サントスルモ該貸付ハ專ラ郡部ニ限定セルヲ以テ郡部負擔ト爲スヲ適當ナリト認ムルニ由ル



府第五十九號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正

ノ件……………可決

府會市部會郡部會議決事件ノ分別中左ノ通改正シ大正十五年度分ヨリ之ヲ施行スルモノトス但シ大正十四年三月三十一日以前ニ於テ繼續費トシテ議決シタル事件ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

郡部會議決事件

土木費但書中府縣道第一號東京厚木線ノ下ニ「東京市赤坂區界ヨリ荏原ヲ加ヘ第二號東京青梅線ノ下」東京市四谷區界ヨリ豐多摩郡井ヲ「東京市四谷區界ヨリ北多摩郡田無町間」ニ改メ其ノ下ニ「第五號東京川越線ヲ加ヘ第六號東京川口線ノ下」東京市本郷區界ヨリ北郷區界ヨリ下ニ「第七號吾嬭行德線」南葛飾郡松江村國道第七號路線ノ下ニ「第十七號品川池上線」ヲ加ヘ「第二十二號芝溝線」ノ下「豐多摩郡澁谷町市郡界ヨリ荏原郡世田ヶ谷線右折」ヲ「豐多摩郡澁谷町府縣道第一百號赤坂目黒線左折分岐點」ニ改メ其ノ下ニ「第二十八號淺草松戶線」東京市本所區界ヨリ南葛飾郡本村府縣道第一百號南千住行德線右折分岐點ニ至ル間」ヲ加ヘ第三十號深川大島線ノ下「南葛飾郡大島町府縣道第三十一號東京浦」ヲ「東京市深川區界砂町線分岐點ニ至ル間」及「南葛飾郡大島町府縣道第三十一號東京浦安」ニ改メ第三十六號寺島田端線「南葛飾郡寺島町元標ヨリ府縣道第四」ノ下ニ「第三十八號深川砂村線」ヲ第四十七號寺島千住線ノ下ニ「第四十八號千住川口線」南足立郡千住元標ヨリ同郡西ヶ谷線分岐點ニ至ル間」ヲ第五十號神田千住線ノ下ニ「第五十四號隅田吉川線」南葛飾郡隅田町號寺島千住線ヨリ同郡南綾瀨村府縣道第二十三號飯坂隅田線分岐點ニ至ル間」ヲ第一百十號麻布惠比須停車場線「東京市麻布區郡澁谷町府縣道第二十」ノ下「第二百二十四號砂村浦安線」第二百三號飯塚隅田線「南葛飾郡南綾瀨村第六號國道ヨリ同村府縣道第五十四號隅田吉川線ニ至ル間」ヲ加フ

(原案説明) 府縣道第二號路線外一線ハ東京市隣接町村ノ發展ニ伴ヒ其ノ連帶支辨タルヘキ範圍變更ヲ適當ナリト認ムルト府縣道第五號線外七線ノ全部又ハ一部ハ交通狀態其ノ他ニ鑑ミ連帶支辨ニ編入スルヲ相當ナリト認ムルニ由ル

府諮問第一號 都市計畫事業トシテ澁谷川改修ノ件……………答申議決

都市計畫事業トシテ別紙ノ通澁谷川ヲ改修セムトス

(答申)諮問ノ趣旨ニ同意ス

(別紙)

澁谷川改修計畫説明



一 澁谷川改修ノ理由

澁谷川ハ舊玉川上水及三田用水ノ各一部ヲ水源トシ之レニ沿岸一帶ノ惡水ヲ合流シ澁谷町宮益橋ニ於テ宇田川ヲ合シ同町ヲ貫流シ下流古川トナル現在幅員三間乃至五間ヲ有シ平時ニ在テハ僅少ノ流量ナルモ一朝降雨ニ際會セハ千四百三十六町步餘ノ廣汎ナル雨量面積ヨリ忽チ狹隘ナル本川ニ集注シ數時間ニシテ兩沿岸ニ氾濫シ大小幾多ノ工場及住宅竝ニ商店ヲ襲ヒ道路橋梁ヲ破壊シ悲惨ヲ極ムル現狀ニ在リ今既往ニ於ケル慘害ノ跡ヲ見ルニ去ル大正九年ニ於ケル被害ハ流失家屋二十八、全壞十、半壞四百戸ヲ算シ其ノ損害實ニ八十八萬三千餘圓ニ上リ昨大正十三年ニ於テハ二十七萬一千餘圓同十四年ニ於テハ七十一萬圓餘ニ達シ經濟上及衛生上ニ於ケル損害實ニ容易ナラサルモノアリ仍テ本川ヲ改修シ治水上根本的ニ水害ヲ除去スルノ計ヲ樹立スルハ蓋シ最モ急務ナル所ナリトス仍テ第一期ノ事業トシテ市郡界天現寺橋ヨリ上流宮益橋間ノ改修ヲ企圖セムトス

二 工事計畫概要

改修水路ノ延長ハ千五百間ニシテ幅員五間半乃至七間ニ擴張シ川底浚深ト共

ニ兩側ニ護岸工ヲ施行セントス

三 橋 梁

現在架設ノ橋梁ニシテ改修事業ニ適合セサルモノハ架換ヲナス

四 工事施行方法及事業費

工事ハ四箇年繼續事業トス

一金百拾四萬七千六百拾六圓

内 譯

護岸費	金四拾五萬圓
橋梁費	金拾貳萬圓
掘鑿費	金拾四萬圓
下水路費	金參萬圓
用地費	金拾八萬圓
支障物移轉費及器具費	金拾六萬圓
事務費	金四萬四千四百拾六圓
雜費	金貳萬參千貳百圓



府諮問第二號 都市計畫事業トシテ舊荒川ノ河川整理ノ件……………答申議決

都市計畫事業トシテ別紙ノ通舊荒川ノ河川整理ヲ施行セムトス  
(答申)諮問ノ趣旨ニ同意ス  
(別紙)

工事計畫説明書

一 河身整理ノ理由

荒川放水路及岩淵閘門ハ大正十三年度ニ於テ完成シタルヲ以テ舊荒川ハ放水路ノ竣成ト共ニ一定量以上増水ハ岩淵閘門ニ依リテ調節セラレ今後舊荒川沿岸一帯ニ洪水ノ襲來ヲ蒙ラサルニ至レリ其ノ結果千住町大橋以下吾妻橋間ニ在ル廣汎ナル渚水地及現在ノ幅員ヲ必要トセサルニ至リタルヲ以テ限定サレタル流量ヲ標準トシ且舟楫其ノ他ノ利便ヲ酌量シ本川ノ幅員ヲ決定シ河身ノ整理ヲ行ヒ水路ヲ適當ノ深サニ浚深シ狹隘ナル部分ハ之レヲ切り取り廣大ニ失スル部分ハ浚深ヨリ生スル土砂ヲ以テ埋立ヲナシ以テ一定ノ幅員ヲ保タシメ約四萬九千五百五十三坪ノ埋立地積ヲ得之レヲ有利ニ使用スヘキ目的ヲ以テ

第一期計畫トシテ吾妻橋ヨリ上流一里間ノ整理ヲ行フモノナリ

二 工事計畫概要

舊荒川ハ別紙附圖ノ如ク幅員ヲ吾妻橋上流ヨリ九十間白鬚橋上流ヨリ八十五間乃至六十間トシA.P.線下十尺迄河底ヲ浚深シ之レヨリ生スル浚深土砂ヲ以テ沿岸地ノ埋立ヲナシ護岸工ヲ施スモノトス

三 護岸

埋立地ニ於テ護岸工現存ノ部分ヲ除キ兩岸延長二千四百二十間五分A.P.上高サ十尺迄鋼矢板工ヲ施工シ法面崩壞ヲ防止ス

四 工事費

工事費豫算總額金百五拾萬九千八百八拾六圓

内 譯

金四拾七萬七千貳百八圓貳拾錢	掘 鑿 埋 立 費
金七拾四萬七千四百貳拾六圓五拾七錢	護 岸 費
金四萬六千參百五拾圓六拾錢	土 地 買 收 費
金拾五萬圓	補償費及機械器具費



金五萬參千貳百圓  
金參萬五千圓

工 事 務 費  
工 事 雜 費

五 工事施行

工事ハ四箇年ノ繼續事業トス

六 埋立地面積

埋立地ハA.P.上十尺迄埋立ヲナシ總平面積四萬九千五百五十三坪ヲ得其ノ内一萬四千七百三十四坪八合ハ市部ニ屬シ三萬四千四百十八坪三合ハ郡部ニ屬スルモノトス

大正十三年度東京府歳入歳出決算書……………承認

府參事會委任事項中改正建議案……………可決

府參事會委任事件中左ノ通改正スルモノトス

四年度繰越工事ニ關スル歳入出豫算追加ノ事トアル「工事」ヲ削リ「追加」ノ次ニ更正ヲ加フ

五金額參千圓未滿ノ歳入出豫算更正若ハ追加ノ事トアル「參千圓」ヲ「壹萬圓」ニ改

ム(議員松見文平發議)

立會川・呑川・内川・蛇崩川府費支辨編入調査ニ關スル建議案……………可決

(建議の大要) 立會川・呑川・内川・蛇崩川の四河川は、孰れも利害の及ぶ所が廣く且つ東京市近郊町村の發展に伴ひ、出水時に際しては其の被害が激甚を極め、沿川住民の利害休戚に關する處が頗る深大である。仍て、速に之を府費支辨の河川に編入して、治水の根本策を樹立すべく、先づ以て調査の方法を講ぜられたいと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員西村菊次郎外四名發議)。

府立第六高等女學校敷地擴張ニ關スル建議案……………可決

(建議の大要) 府立第六高等女學校は敷地が三千坪で、他の府立學校に比較して狹隘であるのみならず、將來高等科又は專攻科を附設する機運に至ることが明かであるから、其の敷地の擴張は最も必要とする所である。況んや隣地の買収は、今日實行しなければ殆んど不可能に陥る虞もあるから、急速に適當の措置を採られた



いと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員野村此平外九名發議)。

庭園税賦課ニ關スル建議案……………可決

(建議の概要) 現時府費多端の際適當の税源を發見して財政の緩和を圖るのは、最も急務とする所である。土地は都市の發展に伴つて、自然増價の急激なる收益もあり、且つ又都市住宅難緩和の爲めにも、廣大の庭園所有者に對して相當の課税を爲すのは必要のこと、思料する。仍て當局者は、此意を諒して適當の措置を採らねたいと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員小川兼四郎、外四名發議)。

女子師範學校並第二高等女學校移轉ニ關スル建議案……………可決

(建議の概要) 女子師範學校及第二高等女學校は、其の敷地が七千餘坪であるが、多年に涉つて漸次増築した爲め、建物の配置が不統一となり、無用の空地を生じて、現代の教育的施設に適當せず、不便不利を極めてゐる。仍て、之を郊外の適當なる地に移し、土地價格の差違より生ずる餘金を以て、完全なる施設建築をしたならば、教育上並經濟上兩ながら得策と思惟するから、當局は速に相當の措置を講ぜられたいと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員大井玄洞外二名發議)。

白鬚橋千住大橋ノ中間ニ架橋ニ關スル建議案……………可決

(建議の概要) 南足立郡千住町及北豊島郡南千住町間の交通は、一に千住大橋に據らなくてはならぬ、斯くては兩町民の不便が少くないから、當局は、白鬚橋千住大橋の中間即ち汐入附近に架橋の計畫を樹てられたいと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員林連外六名發議)。

諸車税ヲ東京市特別税ニ課税權分與ニ關スル建議案……………可決

(建議の概要) 地方税規則並營業税雜種税の種類制限に據り府税を賦課してゐる諸車税は、東京市の道路と密接の關係ある點に稽へて、東京市に特別税としての課税權を與へ、以て、帝都の道路橋梁修築の財源となさしむるのが妥當であり、且帝都



復興上の急務であると認めるから、之が實現に努力せられたいと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員小俣政一發議)。

墨堤切下ヶ道路新設ニ關スル建議案……………可決

(建議の大要) 向島一帶の土地は、近時急激の發展を來たし、東京市は既に三圍一圓を公園豫定地に指定したのである。然るに、現在該地の道路は極めて狹隘であつて、交通保安等總てに遺憾の點が少くない。就ては、現に實用のない彼の墨堤を切下げ、其の堤敷を利用すれば、優に十二間の道路を設けることが出來、之に依て堤内外の地は、一段の開發を見ることが明である。當局は、速かに調査を遂げ、相當の施設あらむことを望むと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員朝倉虎治郎外五名發議)。

神田上水及之ニ注入スル妙正寺、善福寺の各支流府費支辨河

川ニ編入調査ニ關スル建議案……………可決

(建議の大要) 戸塚、落合、中野其の他七ヶ町村を貫流する神田上水及之に注入する妙正寺、善福寺の各支流は、近時郊外町村の急激なる發展に伴ひ、出水に際し其の被害激甚を極むるのは顯著なる事實である。仍て、之を府費支辨河川に編入して治水の根本策を樹て、郊外町村の發展と其の慶福とに資せられたいと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員朝倉虎治郎外五名發議)。

篠崎運河着手促成ニ關スル建議案……………可決

(建議の大要) 南葛飾郡一帶の土地は、都市計畫法に依て工場地帯と認定せられたので、運河の開鑿は最も緊急の事業となつた。曩に本府は、篠崎運河新設の必要を認め、既に設計測量を了せられたが、速に着手竣成を期せられむことを望むと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員片山久藏外六名發議)。

東京府立高等女學校學則第十三條撤廢ニ關スル建議案……………可決

(建議の大要) 普通教育は、何等の制限を設けず一般に之を均霑せしむることが本旨と考へる。然るに本府に於ては、東京府立高等女學校學則第十三條に依り、一般入學者に對し人員超過の理由の下に、徒らに優秀者を選拔せんとして、多數の志願



者を拒斥する實狀であるが、斯くては準備教育其の他諸種の弊害を醸し、社會上由しき問題を惹起する虞がある。當局は適當の方法を講じて、學則第十三條の撤廢を斷行せられたいと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員大久保源之丞外四名發議)。

(註) 東京府立高等女學校學則

第十三條 第一學年入學志願者數入學セシムヘキ人員ニ超過シタルトキハ適當ナル方法ニ依リ入學者ヲ定ム。

石神井川谷端川府費支辨河川編入調査ニ關スル建議案……………可決

(建議の大要) 石神井川及谷端川は、比年水害が頻發し、東京市近郊町村の發展に伴つて、益々其の慘害を増加する實情である。仍て、之を府費支辨に編入して、治水の根本策を樹て、禍害を防止せられたいと知事に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員篠房輔外四名發議)。

通常市部會

本會は、大正十四年十一月二十四日午後四時二十八分に開議し、會議七日間に涉り、十二月二十三日午後九時八分議事終了散會した。

久保議長は、會議の同意を得て、松見文平向山庄太郎を會議錄署名議員に選定した。

最終日の十二月二十三日の會議に於て、副議長足助嘉一郎は都合に依り副議長を辭任する旨を聲明し、會議の承認を得た。

議案 附建議案

第一號議案部	大正十五年度東京府市部營業稅雜種稅課目課額……………	修正
第二號議案部	大正十五年度東京府市部歲入歲出豫算書……………	修正
第三號議案部	大正十五年度東京府市部請願巡查竝請願消防費徵收額……………	可決
第四號議案部	大正十五年度東京府市部積立金歲入歲出豫算書……………	可決
第五號議案部	大正十五年度東京府市部慈惠救濟資金歲入歲出豫算書……………	可決
第六號議案部	起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法……………	可決



第七號議案部	起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法	可決
第八號議案部	起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法	可決
第九號議案部	起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法	可決
第十號議案部	起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法	可決
第十一號議案部	大正十四年度東京府市部歳入歳出追加豫算書	可決
第十二號議案部	大正十四年度東京府市部歳入歳出追加豫算書	可決
第十三號議案部	東京府市部府稅賦課ニ關スル件	可決
第十四號議案部	東京府市部府稅賦課規則中改正ノ件	修正
第十五號議案部	大正十四年度東京府市部歳入歳出追加豫算書	可決
第十六號議案部	大正十四年度東京府市部歳入歳出追加豫算書	可決
市部參事會委任事項改正ニ關スル建議案		承認

議決摘要

市部 第一號議案部 大正十五年度東京府市部營業稅雜種稅課目課

額.....修正

雜種稅

一 遊藝師匠(割註省略)

一等 年稅 金五拾圓

二等 年稅 金貳拾五圓

三等 年稅 金拾圓

四等 年稅 金貳圓五拾錢

一 玉突臺遊技場稅ノ課稅標準タルモノヲ除ク 一臺ニ付 年稅 金四拾貳圓

一 車 荷積小車 荷臺ノ平方尺積十四坪未滿ノモノ 年稅

「金壹圓四拾錢」  
「金壹圓參拾錢」下修正

(修正理由) 不適當ト認ムルニ由ル (調査委員意見) (委員長大井玄洞)

一 自動車

運輸營業專用

乗用

第五章 府會の行動 大正十四年の府會



二十馬力以上	年稅	〔金百五圓〕 <sub>ト修正</sub>
十五馬力以上	同	〔金七拾圓〕 <sub>ト修正</sub>
十五馬力以上	同	〔金七拾圓〕 <sub>ト修正</sub>
十五馬力以上	同	〔金五拾圓〕 <sub>ト修正</sub>
十五馬力以上	同	〔金五拾圓〕 <sub>ト修正</sub>
五馬力未滿	同	〔金參拾圓〕 <sub>ト修正</sub>
貨物	同	金貳拾圓

二十馬力以上	同	〔金七拾圓〕 <sub>ト修正</sub>
十五馬力以上	同	〔金五拾圓〕 <sub>ト修正</sub>
十五馬力未滿	同	〔金參拾圓〕 <sub>ト修正</sub>

(修正理由) 不適當ト認ムルニ由ル (調査委員意見)

一特殊自動車 サイドカ！リヤカー！其ノ他之ニ類スルモノ

一觀覽

觀覽料	七拾錢以上壹圓未滿	一回ニ付	金壹錢 (修正削除)
觀覽料	壹圓以上貳圓未滿	一回ニ付	〔金貳錢〕 <sub>ト修正</sub>
同	貳圓以上參圓未滿	同	〔金五錢〕 <sub>ト修正</sub>

同	參圓以上五圓未滿	同	〔金拾錢〕 <sub>ト修正</sub>
同	〔五圓以上〕 <sub>ト修正</sub>	同	〔金貳拾錢〕 <sub>ト修正</sub>
同	七圓以上	同	金貳拾五錢 (修正追加)

(修正理由) 不適當ト認ムルニ由ル (調査委員意見)

(附帶決議)

- 一 現行自動車稅ハ馬力數ヲ以テ課稅標準ト爲スモ甚タ適當ナラスト認ム依テ將來ハ乗用車ハ乘員數ヲ貨物車ハ積載噸數ヲ以テ課稅標準ト爲スコトニ改ムルコト
- 一 興行稅及營業用自動車ニ對シ分納ノ制度ヲ設ケラレムコトヲ望ム
- 一 新聞取次所カ直接其ノ業務ニ專用スル車ハ課稅外トスル様理事者ニ於テ相當考究セラレムコトヲ望ム

一 興行及其ノ他警察取締上府ノ歲入ニ影響アルモノハ東京府警視廳打合せノ上遺憾ナキヲ期スルコト (調査委員意見)

(原案説明) 商業稅中木賃宿業、人事ニ關スル周旋業、紹介業、賣藥行商、理髮人八等及營業人力車稅ハ社會政策的見地ヨリ之ヲ廢止シ課稅ノ權衡上運輸營業用貨物自動車稅ヲ輕減シ、玉突臺遊藝



師匠稅課率ヲ變更シタルト科目ノ整理上臨時市場稅及屠畜稅ヲ廢シタリ

市 第二號議案部 大正十五年度東京府市部歲入歲出豫算書……………修正

歲入

經常部

- 第一款 地租 割 金八拾萬四千八百貳拾九圓
- 第一款 地租 割 金八拾萬四千八百貳拾九圓  
(宅地租壹圓ニ付參拾四錢、其ノ他ノ土地地租壹圓ニ付八拾參錢)
- 第二款 營業稅 稅 金七拾萬四千五百拾九圓
- 第一款 商業稅 稅 金六拾貳萬貳千百參拾圓
- 第二款 工業稅 稅 金八萬貳千貳拾九圓
- 第三款 雜種稅 稅 金百七拾八萬四千四百七拾五圓
- 第四款 營業稅附加稅 金貳百五拾七萬五千參百七拾九圓
- 第一款 營業稅附加稅 金貳百五拾七萬五千參百七拾九圓  
(本稅壹圓ニ付四拾錢四厘)
- 第五款 取引所營業稅附加稅 金六萬五千參百參拾貳圓
- 第一款 取引所營業稅附加稅 金六萬五千參百參拾貳圓  
(本稅壹圓ニ付拾錢)

第六款 所得稅附加稅 金七拾參萬五千百貳拾參圓

第一款 所得稅附加稅 金七拾參萬五千百貳拾參圓  
(本稅壹圓ニ付參錢六厘)

第七款 家屋稅 金八拾萬六千五百七拾參圓

第一款 家屋稅 金八拾萬六千五百七拾參圓  
(一個ニ付五錢六厘、罹災區域内假建築物個數一個ニ付貳錢八厘、特別增課貳拾五萬貳千九百五拾貳圓)

第八款 都市計畫特別稅 金百四拾七萬參千貳百四圓

第一款 地租附加稅 金貳拾五萬五千六百參拾六圓  
(地租壹圓ニ付拾錢八厘)

第二款 營業稅附加稅 金百貳拾壹萬七千五百六拾八圓  
(本稅壹圓ニ付拾九錢壹厘)

第九款 國庫下渡金 金六百參拾九萬五千貳百七拾五圓

第一款 警察費下渡金 金六百參拾九萬五千貳百七拾五圓

第十款 雜收入 金百六拾八萬五千五百五拾七圓  
(修正)金百六拾八萬七千參百五拾七圓

第七項 過年度府稅 金百參拾壹萬七千五百四圓  
(修正)金百參拾壹萬九千參百四圓

(修正理由) 見積リ過少ト認ムルニ由ル  
(調査委員意見) 委員長大井玄洞



第二款 市郡連帶市部收入額 金參百四拾九萬九千四百七拾五圓

第一項 市郡連帶市部收入額 金參百四拾九萬九千四百七拾五圓

經常部合計金貳千五拾貳萬九千參百八拾壹圓

(修正)金貳千五拾參萬千八百八拾壹圓

臨時部

第一款 繰越金 金百貳萬六千參百參拾四圓

第一項 前年度繰越金 金百貳萬六千參百參拾四圓

第二款 國庫補助金 金五萬參千圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金五萬參千圓

第三款 國庫補助金 金拾四萬九千八百七拾壹圓

第一項 府債費補助金 金拾四萬九千八百七拾壹圓

第四款 府債 金百九拾七萬七百八拾貳圓

第一項 府債 金百九拾七萬七百八拾貳圓

臨時部合計金參百拾九萬九千九百八拾七圓

歲入總計金貳千參百七拾貳萬九千參百六拾八圓

(修正)金貳千參百七拾參萬千六百六拾八圓

歲出

經常部

第一款 警察費 金九百五拾貳萬千八百拾壹圓

第一項 俸給及諸給 金八百壹萬六千六百八拾圓

警部補三百二十人月俸六拾圓此金貳拾參萬四百圓 巡查部長五百三十六人月

俸五拾七圓此金參拾六萬六千六百貳拾四圓 巡查六千三百一人月俸五拾參圓

此金四百萬七千四百參拾六圓 精勤加俸拾貳萬九千六拾圓 功勞加俸七百貳拾

圓 消防曹長八十八人月俸五拾參圓 此金五萬五千九百六拾八圓 消防手九百四

十二人月俸五拾圓 三十人月俸參拾貳圓 此金五拾七萬六千七百貳拾圓 精勤加

俸七千五百圓 (警察) 蹄鐵技手一人月俸七拾五圓 警察技手四人 運轉技手二人月

俸百圓 此金八千百圓 (消防) 警察技手一人月俸百圓 此金千貳百圓 警察書記四十

人月俸五拾參圓 百三人月俸四拾八圓 此金八萬四千七百六拾八圓 消防書記四

十九人月俸四拾八圓 此金貳萬八千貳百貳拾四圓 警察署長警部警部補巡查消

防官消防手宿料八拾六萬四千五百七拾六圓 諸傭給貳拾貳萬八千參百八拾壹



圓共濟組合給與金拾萬七千四百八拾九圓其他手當旅費惠與給助

第二項 應 費 金百五拾萬五千百參拾壹圓

第二款 警察廳舍修繕費 金參萬參百九拾圓

第一項 修 繕 費 金參萬參百九拾圓

第三款 府 費 取 扱 費 金八萬七千六百參拾六圓

第一項 徵 收 費 金八萬七千六百參拾六圓

第四款 神 社 費 金千貳百六拾貳圓

第一項 府 社 費 金五百五拾八圓

第二項 鄉 社 費 金七百四圓

第五款 雜 出 金七萬七百圓

第一項 府稅其他過誤納下戻 金七萬七百圓

第六款 豫 備 費 金貳萬圓

第一項 豫 備 費 金貳萬圓

第七款 市郡分賦市部負擔額 金千百九拾參萬九千六百七拾八圓

(修正)金千百九拾四萬千四百七拾八圓

第一項 市郡分賦市部負擔額 金千百九拾參萬九千六百七拾八圓

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル (調査委員意見) (委員長大井玄洞)

經常部合計金貳千百六拾七萬千四百七拾七圓

(修正)金貳千百六拾七萬參千貳百七拾七圓

臨時部

第一款 警察廳舍建築費 金百參拾九萬千七百五拾圓

第一項 建 築 費 金百參拾九萬千七百五拾圓

大震火災ニ燒失ノ警察署其ノ他復舊建築費

第二款 市傳染病豫防補助費 金貳拾七萬八千圓

第一項 市傳染病豫防補助費 金貳拾七萬參千圓

第二項 市トラホーム豫防補助費 金五千圓

第三款 在郷軍人會補助費 金參千圓

第一項 補 助 費 金參千圓

第四款 府 債 費 金參拾六萬參千貳百六拾貳圓



第一項 元 金 償 還 金拾七萬六千圓

第二項 利 子 金拾八萬七千貳百六拾貳圓

第五款 運 用 金 戻 入 子 金貳萬千八百七拾九圓

第一項 利 子 金貳萬千八百七拾九圓

臨時部合計金貳百五萬七千八百九拾壹圓

歲出總計金貳千參百七拾貳萬九千參百六拾八圓

(修正)金貳千參百七拾參萬千百六拾八圓

市 第三號議案部

大正十五年度東京府市部請願巡查竝請願消防費徵收額.....

可 決

一金八拾參圓

巡查一人一箇月分

一金七拾八圓

消防手一人一箇月分

市 第四號議案部

大正十五年度東京府市部積立金歲入歲出豫算書.....

可 決

市 第五號議案部

大正十五年度東京府市部慈惠救濟資金歲入歲出豫算書.....

可 決

市 第六號議案部

起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法.....

可 決

第一條 復興事業ノ内土木費負擔ニ充ツル爲メ大正十五年度ニ於テ金四拾五萬

參千貳百六拾七圓ヲ國庫ヨリ借入ルルモノトス

第二條 借入金ノ利子ハ一箇年百分ノ五トシ毎年度三月三十一日ニ於テ其ノ年

度分ヲ仕拂フモノトス但シ借入ノ時ヨリ大正十七年度迄ハ無利子トス

第三條 借入金ハ借入ノ時ヨリ大正十七年度迄据置キ大正十八年度以降大正四

十七年度迄ニ元利均等ノ償還ヲ爲スモノトス但シ經濟ノ都合ニ依リ繰上ケ償

還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮スルコトヲ得

第四條 前條ノ償還ハ一般財源ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

市 第七號議案部

起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法.....

可 決



第一條 復興事業ノ内都市計畫事業費負擔ニ充ツル爲メ大正十五年度ニ於テ金拾七萬圓ヲ國庫ヨリ借入ルルモノトス

第二條 借入金ノ利子ハ一箇年百分ノ五トシ毎年度三月三十一日ニ於テ其ノ年度分ヲ支拂フモノトス但シ借入ノ時ヨリ大正十七年度迄ハ無利子トス

第三條 借入金ハ借入ノ時ヨリ大正十七年度迄据置キ大正十八年度以降大正四十七年度迄元利均等ノ償還ヲ爲スモノトス但シ經濟ノ都合ニヨリ繰上ケ償還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮スルコトヲ得

第四條 前條ノ償還ハ一般財源ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

市 第八號議案部

起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法……………可決

第一條 復興事業ノ内教育施設費負擔ニ充ツル爲メ大正十五年度ニ於テ金七拾萬九千七百圓ヲ國庫ヨリ借入ルルモノトス

第二條 借入金ノ利子ハ一箇年百分ノ五トシ毎年三月三十一日ニ於テ其ノ年度分ヲ支拂フモノトス但シ借入ノ時ヨリ大正十七年度迄ハ無利子トス

第三條 借入金ハ借入ノ時ヨリ大正十七年度迄据置キ大正十八年度以降大正四十七年度迄ニ元利均等ノ償還ヲ爲スモノトス但シ經濟ノ都合ニ依リ繰上ケ償還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮スルコトヲ得

第四條 前條ノ償還ハ一般財源ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

市 第九號議案部

起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法……………可決

第一條 震災復舊警察署消防署其ノ他ノ建築費ニ充ツル爲メ大正十五年度ニ於テ金五拾八萬四千圓ヲ國庫ヨリ借入ルルモノトス

第二條 借入金ノ利子ハ一箇年百分ノ五トシ毎年度三月三十一日ニ於テ其ノ年度分ヲ支拂フモノトス但シ借入ノ時ヨリ大正十七年度迄ハ無利子トス

第三條 借入金ハ借入ノ時ヨリ大正十七年度迄据置キ大正十八年度以降大正四十七年度迄ニ元利均等ノ償還ヲ爲スモノトス但シ經濟ノ都合ニ依リ繰上ケ償還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮スルコトヲ得

第四條 前條ノ償還ハ一般財源ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

市 第十號議案部

起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法……………可決



第一條 府立學校震災復舊備品費ノ負擔ニ充ツル爲メ大正十五年度ニ於テ金五萬參千八百拾五圓ヲ國庫ヨリ借入ルルモノトス

第二條 借入金ノ利子ハ一箇年百分ノ五トシ毎年度三月三十一日ニ於テ其ノ年度分ヲ支拂フモノトス但シ借入ノ時ヨリ大正十七年度迄ハ無利子トス

第三條 借入金ハ借入ノ時ヨリ大正十七年度迄据置キ大正十八年度以降大正四十七年度迄ニ元利均等ノ償還ヲ爲スモノトス但シ經濟ノ都合ニ依リ繰上ケ償還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮スルコトヲ得

第四條 前條ノ償還ハ一般財源ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

市第十一號議案部

大正十四年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……可決

歳入

經常部

第七款 市郡連帶市部收入額 金拾五萬參千圓

第一項 市郡連帶市部收入額 金拾五萬參千圓

經常部合計金拾五萬參千圓

歳入總計金拾五萬參千圓

歳出

經常部

第七款 市郡分賦市部負擔額 金拾五萬參千圓

第一項 市郡分賦市部負擔額 金拾五萬參千圓

經常部合計金拾五萬參千圓

歳出總計金拾五萬參千圓

市第十二號議案部

大正十四年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……可決

歳入

經常部

第十款 雜 收 入 金四千參百六拾八圓

第二項 請願消防費納付金 金四千參百六拾八圓

第七款 市郡連帶市部收入額 金八萬參千百五拾九圓

第一項 市郡連帶市部收入額 金八萬參千百五拾九圓

第五章 府會の行動 大正十四年の府會



經常部合計金八萬七千五百貳拾七圓

臨時部

第一款 繰越金 金參萬七千六百九拾九圓

第一項 前年度繰越金 金參萬七千六百九拾九圓

臨時部合計金參萬七千六百九拾九圓

歳入總計金拾貳萬五千貳百貳拾六圓

歳出

經常部

第一款 警察費 金四千參百六拾八圓

第一項 俸給及諸給 金參千五百貳拾參圓

第二項 廳費 金八百四拾五圓

第七款 市郡分賦市部負擔額 金拾貳萬八百五拾八圓

第一項 市郡分賦市部負擔額 金拾貳萬八百五拾八圓

經常部合計金拾貳萬五千貳百貳拾六圓

歳出總計金拾貳萬五千貳百貳拾六圓

市部 第十三號議案

東京府市部府稅賦課ニ關スル件……………可決

罹災區域内假建築物ニ對スル家屋稅ノ賦課ニ關スル件左ノ通定メ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行スルモノトス

罹災區域内假建築物ニ對スル家屋稅ハ大正十五年度ニ限リ豫算ニ於テ別ニ定ムル課率ニ基キ東京府市部府稅賦課規則第十五條乃至第十七條ニ依リ賦課ス但シ掘立又ハ之ニ類スル粗造ノ建物ニシテ延坪五坪以内ノモノハ賦課セス  
本令ニ於テ罹災區域ト稱スルハ大正十二年九月震災ノ爲メ家屋ノ燒失又ハ全潰シタル區域ヲ謂フ

市部 第十四號議案

東京府市部府稅賦課規則中改正ノ件……………修正

東京府市部府稅賦課規則中左ノ通改正シ大正十五年四月一日ヨリ施行スルモノトス

第四條第一號中但書ヲ削リ第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一 船稅車稅自轉車稅自動自轉車稅自動車稅特殊自動車稅日本形船稅及西洋形



船税ニ在リテハ納稅義務發生ノ場合ニ限り其ノ月ヨリ月割ヲ以テ賦課ス但シ納稅義務消滅ト同時ニ之ニ代ハルヘキ納稅義務ノ發生シタルモノニ對シテハ次ノ課稅期ヨリ賦課ス

同條末尾ニ左ノ一號ヲ加フ

一他府縣ニ住居ヲ有スル遊藝稼人相撲俳優ニシテ一時本府内ニ於テ其ノ行爲ヲ爲ス者ニ對スル當該期ノ課稅ハ其ノ月ヨリ月割ヲ以テス

第八條ノ三 商業税中物品販賣業金錢貸付業物品貸付業請負業周旋業代理業仲立業問屋業信託業工業税中製造業及飲食店税ノ賦課額ニシテ營業税法第十二條ニ依リ算出シタル國税最低額ヲ超過スル場合ハ其ノ額ニ止ム

第九條中書畫骨董品臨時市場以下ヲ削ル

第十條ノ二中七拾錢ヲ壹圓ニ改ム(修正追加)

(修正理由) 課目課額中觀覽税ノ修正ニ伴フニ由ル(調査委員意見 委員長大井玄洞)

第十三條第一項第三號中「本府内ニ於テ賦課ヲ受クル」ヲ削リ左ノ各號ヲ加フ  
一理髮人ニシテ最高料金拾錢未滿ノ者若クハ貳拾錢未滿ニシテ從業者ヲ使用セサル者

一産業組合ノ所有ニシテ其ノ業務上専用スル家屋物件

市第十五號議案部

大正十四年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……可

決

歳入

經常部

第九款 國庫下渡金 金拾六萬七千百九拾六圓

第一項 警察費下渡金 金拾六萬七千百九拾六圓

第三款 市郡連帶市部收入額 金拾萬參千貳百五拾五圓

第一項 市郡連帶市部收入額 金拾萬參千貳百五拾五圓

經常部合計金貳拾七萬四百五拾壹圓

臨時部

第一款 繰越金 金參拾七萬七千貳百七拾參圓

第一項 前年度繰越金 金參拾七萬七千貳百七拾參圓

臨時部合計金參拾七萬七千貳百七拾參圓

歳入總計金六拾四萬七千七百貳拾四圓



歲出

經常部

第一款 警察費 金貳拾七萬八千六百六拾圓

第一項 俸給及諸給 金貳拾七萬八千六百六拾圓

(原案説明) 精勤加俸及普通恩給受給者増加ノ爲既定豫算ニ不足ヲ告クルニ由ル

第七款 市郡分賦市部負擔額 金參拾六萬九千六拾四圓

第一項 市郡分賦市部負擔額 金參拾六萬九千六拾四圓

經常部合計金六拾四萬七千七百貳拾四圓

歲出總計金六拾四萬七千七百貳拾四圓

市第十六號議案部 大正十四年度東京府市部歲入歲出追加豫算書……………可決

歲入

經常部

第九款 國庫下渡金 金拾七萬八千六百參拾五圓

第一項 警察費下渡金 金拾七萬八千六百參拾五圓

經常部合計金拾七萬八千六百參拾五圓

臨時部

第一款 繰越金 金拾壹萬九千九拾圓

第一項 前年度繰越金 金拾壹萬九千九拾圓

臨時部合計金拾壹萬九千九拾圓

歲入總計金貳拾九萬七千七百貳拾五圓

歲出

經常部

第一款 警察費 金貳拾九萬七千七百貳拾五圓

第一項 俸給及諸給 金貳拾九萬七千七百貳拾五圓

巡查宿料及勉勵賞與追加

經常部合計金貳拾九萬七千七百貳拾五圓

歲出總計金貳拾九萬七千七百貳拾五圓

大正十三年度東京府市部歲入歲出決算書……………承認



市部參事會委任事項改正ニ關スル建議案……………可決

市部參事會委任事件中左ノ通改正スルモノトス

三年度繰越工事ニ關スル歳入出豫算追加ノ事トアル「工事」ヲ削リ「追加」ノ次ニ「更正」ヲ加フ

四金額參千圓未滿ノ歳入出豫算更正若ハ追加ノ事トアル「參千圓」ヲ「壹萬圓」ニ改ム(議員松見文平發議)

### 通常郡部會

本會は大正十四年十一月二十四日午後四時三十二分に開議し、會議七日間に涉り、十二月二十三日午後四時五十一分議事終了散會した。

朝倉議長は、會議の同意を得て、保坂治太郎、伊藤武七郎を會議録署名議員に選定した。

本會に於ける、稍々重要な質問を次に掲げる。  
一 道路の掘鑿及損傷等に關する件

議員井田忠信、右川慶治等から、近年電線や瓦斯管其の他を埋設する爲め道路を掘返す場合が非常に頻繁となり、數日、若くは十數日に亘つて通行を妨害し、一朝降雨でもあれば泥濘の惡路と變じ、府民の不便危険此上もなき實狀である。のみならず、折角改修繕を終へたばかりの道路を數日後には再び掘返へす爲め、府費に於ける損害も尠少でない。これは府民の爲め忍ぶべからざる事であつて、何人も我と感を同ふするであらうと考へる。之に對し、當局は何とか適當の方法を講ずることが出來ぬかと質問したのに對し、正木事務官は、瓦斯、電氣、水道等の事業の爲め、主要道路を絶へず掘鑿せられ、甚だ迷惑を感ずることは理事者も同感である。之に就ては、折角研究をしてゐるが、其の一方方法として、諸種の工事を成るべく一時に取纏めて施工せしめることが出來ないかと研究して見たが、何分事業の目的方法が異なるので、一時に取纏めることが困難である。仍て掘鑿の期間を成るべく短縮せしむべく、事業當事者及警察署とも協議して、出来るだけ夜間に作業せしめ、其の夜の中に掘鑿の部分を埋めさせる方法を取つて居るが、中には、遞信省所管の「マンホール」の如きは、夜間作業して直ちに埋戻ることが出來ない關係があるの

で困つて居る。兎に角關係會社又は官廳とも協議して、成るべく危険等を少から



しむることに努力する考へである」と答辯した。

## ニ瓦スタンクに課税の件

議員有馬淺雄は、府税賦課規則は、永い間部分的の追加改正等の爲めに首尾一貫しない不完全のものとなつて居る。其の一例として、賦課規則上家屋税は建物所有者に賦課するものであるが、瓦スタンクは從來府税を賦課してない。「瓦スタンク」は家屋ではないが建物である。建物である以上は府税を賦課しても差支ない様に思はれる。規則上建物の種類を石造煉瓦造、鐵筋コンクリート造等と列擧してある其の中の一に入るべきものではあるまいか。倉庫、豚舎、鶏舎の如き五尺以上の建物にも課税してゐるのである。「瓦スタンク」も瓦斯といふ一の物資を貯藏する建物に外ならないから、他の倉庫等と同様課税して差支ないと思ふが、當局の見解は如何であるかと質問した。是に對し、安井事務官は、現行賦課規則の不完全なることは、理事者も認めて居る。内務省に於ける改正案の進捗如何に關せず、改正に盡して見る覺悟である。そこで、「瓦スタンク」の件であるが、家屋税の規定より見て、建物に課税するのであるから、「タンク」なる建物に課税するのは差支ない様にも思はれる。殊に、家屋税の賦課が單に個人所有の家屋のみでなく、資産、資力とい

ふ方面をも參酌して、擔税力を算定し得る基礎に屬する各種の建物に及ぼして課税し得ることを認めて居る關係上、「タンク」に課税することは、十分の理由が存するかに思はれる。併し乍ら、取扱上の觀念として、「タンク」を直に家屋の範圍に入れ得るや否は、多少考究の餘地あると考へられるので、家屋税の文字に拘泥するか、或は建物と云ふ稱呼よりして、進んで工作物に迄課税することが出来るといふ、廣き解釋を取り得るや否に就ては、實例判例等もないから、質問の趣旨を尊重して、内務當局とも十分協議し、近き將來に於て解決する考へである」と答へた。

## 三 家屋税減免に關する件

議員石井武一郎は、農作物が水害等の爲めに甚しく不作の場合には、地租減免の規定があり、營業税法に於ても、或場合に對する減免の規定がある。然るに、府税の賦課を受ける家屋税は、如何に永き期間空家となつて収入が無くとも、家屋税を減免せられることがない。即ち規則上減免しない趣旨になつてゐるが、これは如何にも不合理と思はれる。警察官其の他の證明があつたならば、空家となつて居る期間の家屋税を免除することに規則を改正せられては如何かと思ふが、理事者の意見を承知したい」と質問した。安井事務官は之に對し、國税等の例に鑑みても質



問の趣旨は至極道理あることと思ふ。空家となつて居る期間を何程とするか、其の長短は研究の餘地あるも、兎に角永き期間空家となつて居ることが確實に證明し得らるるならば、其の期間免稅するのは適當と思はれるから、十分研究して相當の措置を講ずる考へである」と答へた。

議案 附建議案

- 第一號議案部 大正十五年度東京府郡部營業稅雜種稅課目課額……………修正
- 第二號議案部 大正十五年度東京府郡部歲入歲出豫算書……………修正
- 第三號議案部 大正十五年度東京府郡部請願巡查費徵收額……………可決
- 第四號議案部 大正十五年度東京府郡部積立金歲入歲出豫算書……………可決
- 第五號議案部 大正十五年度東京府郡部町村震災貸付資金歲入歲出豫算書……………可決
- 第六號議案部 大正十五年度東京府郡部衛生資金歲入歲出豫算書……………可決
- 第七號議案部 大正十五年度東京府郡部慈惠救濟資金歲入歲出豫算書……………可決
- 第八號議案部 自大正十四年度至大正十五年度東京府郡部土木費繼續年期及支出方……………可決

- 第九號議案部 自大正十四年度至大正十六年度東京府郡部土木費繼續年期及支出方……………可決
- 第十號議案部 自大正十五年度至大正十六年度東京府郡部土木費繼續年期及支出方……………可決
- 第十一號議案部 自大正十五年度至大正十六年度東京府郡部土木費繼續年期及支出方……………可決
- 第十二號議案部 自大正十五年度至大正十八年度東京府郡部土木費繼續年期及支出方……………可決
- 第十三號議案部 自大正十五年度至大正十七年度東京府郡部土木費繼續年期及支出方……………可決
- 第十四號議案部 自大正十五年度至大正十六年度東京府郡部土木費繼續年期及支出方……………可決
- 第十五號議案部 自大正十五年度至大正十七年度東京府郡部土木費繼續年期及支出方……………可決



第 郡 第十六號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第十七號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第十八號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第十九號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第二十號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第二十一號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第二十二號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第二十三號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第二十四號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第二十五號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第二十六號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第二十七號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第二十八號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第二十九號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第 郡 第三十號議案部 自大正十五年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方

法.....可決

第五章

府會の行動

大正十四年の府會



第三十一號議案部

法 自大正十七年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第三十二號議案部

法 自大正十七年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第三十三號議案部

法 自大正十六年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第三十四號議案部

法 自大正十六年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第三十五號議案部

法 自大正十六年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第三十六號議案部

法 自大正十六年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第三十七號議案部

法 自大正十七年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第三十八號議案部

法 自大正十七年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第三十九號議案部

法 自大正十七年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第四十號議案部

法 自大正十六年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第四十一號議案部

法 自大正十六年度 東京府郡部土木費繼續年期及支出方  
可決

第四十二號議案部

起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法  
可決

第四十三號議案部

起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法  
可決

第四十四號議案部

起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法  
可決

第四十五號議案部

起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法  
可決

第四十六號議案部

大正十四年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書  
可決

第四十七號議案部

大正十四年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書  
可決

第四十八號議案部

大正十四年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書  
可決

第四十九號議案部

東京府郡部府税賦課ニ關スル件  
可決

第五章

府會の行動

大正十四年の府會



郡部	第五十號議案部	東京府郡部府稅賦課規則中改正ノ件	修正
郡部	第五十一號議案部	東京府郡部府稅賦課規則中改正ノ件	修正
郡部	第五十二號議案部	大正十四年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書	可決
郡部	第五十三號議案部	特別會計設置ノ件	可決
郡部	第五十四號議案部	大正十四年度東京府郡部店舖建設費貸付資金歲入歲出豫算書	可決
郡部	第五十五號議案部	起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法	可決
郡部	第五十六號議案部	大正十五年度東京府郡部店舖建設費貸付資金歲入歲出豫算書	可決
郡部	第五十七號議案部	大正十四年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書	可決
郡部	第五十七號議案部	大正十三年度東京府郡部歲入歲出決算書	承認
郡部	第一號議案部	郡部參事會委任事項改正ニ關スル建議案	可決

議決摘要

額.....修正

營業稅

一 商業

第四類 藝妓屋

藝妓

小藝妓

雜種稅

一 遊藝師匠

一等

二等

三等

四等

一 遊藝稼人

第一種 技藝士

一等

第二章 府會の行動

大正十四年の府會

義太夫・長唄・清元・常盤津・歌澤・新内・琵琶  
其ノ他音曲及舞踊等ノ技藝ヲ教授スルモノ

興行場又ハ集會ノ場所ニ出テ講談・浪花節・義太夫・落語・  
奇術・洋樂・琵琶・活動寫眞辯士等ノ技藝ヲ業トスルモノ

一人ニ付 月稅 金五圓參拾錢  
同 同 金貳圓參拾錢

年稅 金五拾圓  
同 金貳拾五圓  
同 金拾圓  
同 金貳圓五拾錢

年稅 金八拾圓



二 等	年稅	金四拾圓
三 等	同	金貳拾圓
四 等	同	金拾圓
五 等	同	金參圓
第二種 技藝士	同	興行場又ハ集會ノ場所ニ出テ長唄・清元・常盤津・歌澤・新内其ノ他ノ技藝ヲ業トスルモノ
一 等	同	金四拾圓
二 等	同	金貳拾圓
三 等	同	金拾圓
四 等	同	金五圓
五 等	同	金貳圓五拾錢
一 相 撲	年稅	金百貳拾圓
一 等	同	金八拾圓
二 等	同	金四拾圓
三 等	同	金四拾圓
四 等	同	金拾貳圓

五 等	同	金貳圓五拾錢
一 俳 優	年稅	金五百圓
一 等	同	金參百圓
二 等	同	金百八拾五圓
三 等	同	金百拾圓
四 等	同	金五拾圓
五 等	同	金貳拾四圓
六 等	同	金拾壹圓
七 等	同	金貳圓五拾錢
八 等	同	同
一 幫 間	月稅	金四圓
一 等	同	金貳圓
二 等	同	同
一 市 場	年稅	賣買金高萬分ノ六
一 類	年稅	賣買金高萬分ノ六



二類 米穀市場 年稅 賣買金高萬分ノ〇・四  
 三類 其ノ他 同 賣買金高萬分ノ二

一船

日本形船積石五十石未滿・游漁船・小廻船(積石ニ拘ラス)

長自軸梁至自軸梁 二間未滿 年稅 金五拾貳錢

同 二間 同 金八拾參錢

但シ二間以上一間ヲ加フル毎ニ金參拾壹錢ヲ増加ス一間未滿ヲ加フル

トキ亦同シ

遊船

長自軸梁至自軸梁 三間未滿 同 金貳圓拾四錢

同 三間 同 金參圓貳拾錢

但シ三間以上一間ヲ加フル毎ニ金壹圓拾錢ヲ増加ス一間未滿ヲ加フル

トキ亦同シ

一車

自用馬車

二匹立以上 同 金百拾圓

一匹立 同 〔金七拾五圓〕ト修正

營業馬車

二匹立以上 同 金貳拾參圓

一匹立 同 金拾四圓

荷積牛馬車

荷積馬車 同 金九圓

荷積牛車

荷臺ノ平方尺積十八坪以上ノモノ 同 金九圓

同十八坪未滿十四坪以上ノモノ 同 金六圓

同十四坪未滿ノモノ 同 金參圓五拾錢

自用人力車

二人乘 乘臺ノ幅内法 二尺以上ノモノ 同 金拾五圓

一人乘 乘臺ノ幅内法 二尺未滿ノモノ 同 金九圓

荷積大車 荷臺ノ平方尺積十 四坪以上ノモノ 同 金參圓



荷積小車 荷臺ノ平方尺積十  
四坪未滿ノモノ

自轉車

自轉車

自轉車荷臺 荷箱ヲ含ム

荷臺附自轉車 荷箱付自轉車ヲ含ム

自動自轉車 荷箱若クハ荷臺ヲ取  
付ケタルモノヲ含ム

自動車

自家用

乗用

二十馬力以上

十五馬力以上

十五馬力以上

十馬力以上

五馬力未滿

貨物

年税 金壹圓七拾錢

同 金參圓參拾錢

同 金壹圓貳拾錢

同 金四圓五拾錢

同 金拾四圓

同 金參百圓

同 金貳百參拾八圓

同 金百五拾參圓

同 金八拾五圓

同 金五拾壹圓

二十馬力以上

十五馬力以上

十五馬力未滿

運輸營業專用

乗用

二十馬力以上

十五馬力以上

十五馬力以上

十馬力以上

五馬力未滿

貨物

二十馬力以上

十五馬力以上

十五馬力未滿

特殊自動車 サイドカー・リヤカー。  
其ノ他之ニ類スルモノ

同 金貳拾圓



收入金高〔百分ノ六〕ト修正〔七〕

一 火葬場

一 日本形船

積石五十石以上

一石ニ付 年稅 金參錢五厘

一 西洋形船

蒸汽船機械船及客船

河川ヲ航行スルモノニシテ乘客定員四十人以上ノ客船及其ノ曳船

一噸ニ付 年稅 金壹圓四拾錢

以上ニ該當セサル船

同 同 金參拾錢

風帆船及其ノ他ノ船

同 同 金貳拾四錢

一 畜 犬

一頭ニ付 年稅 金參圓

一 不動産取得

土 地

時價千分ノ十二

建 物

時價千分ノ八

一 觀 覽

〔觀覽料 七拾錢以上 壹圓未滿

一回ニ付 金壹錢(修正削除)

觀覽料 貳圓未滿

一回ニ付 〔金貳錢〕ト修正

同 貳圓以上

同 〔金五錢〕ト修正

同 參圓以上

同 〔金拾錢〕ト修正

同 五圓未滿

同 〔金拾錢〕ト修正

同 〔五圓以上七圓未滿〕ト修正

同 〔金貳拾五錢〕ト修正

同 七圓以上

同 金貳拾五錢(修正追加)

(原案説明) 商業中木賃宿業、人事ニ關スル周旋業、紹介業、賣藥行商及營業人力車稅ハ社會政策的見地ヨリ之ヲ廢止シ課稅ノ權衡上藝妓屋業及自轉車、自動車其ノ他ノ物件稅ニ輕減ヲ加ヘ遊藝師匠、各種技藝士、相撲俳優、替間ノ等級ヲ變更シタルト科目ノ整理上臨時市場及鐵道馬車ヲ削除シタリ

(修正理由) 不適當ト認ムルニ由ル(調査委員意見) (委員長平林淺次郎)

郡 部 第二號議案 大正十五年度東京府郡部歲入歲出豫算書……………修正

歲 入

經 常 部

第一款 地 租 割 金六拾參萬四千九百參拾九圓

第一項 地 租 割 金六拾參萬四千九百參拾九圓

第五章 府會の行動

大正十四年の府會

一六九



第二款 營業稅

金參拾萬貳千八百五拾八圓

第一項 商業稅

金貳拾參萬七百四拾壹圓

第二項 工業稅

金七萬貳千百拾七圓

第三款 雜種稅

金百九拾四萬九千六百八拾圓

(修正)金百九拾四萬六千九百八拾七圓

第六項 車稅

金參拾貳萬千參百四拾八圓

(修正)金參拾貳萬千參百六拾參圓

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル (調査委員意見) 委員長 平林淺次郎

第五項 火葬場稅

金壹萬八千九百五拾六圓

(修正)金壹萬六千貳百四拾八圓

(修正理由) 課目課額ノ修正ニ伴フニ由ル (調査委員意見) 委員長 平林淺次郎

第四款 營業稅附加稅

金七拾貳萬九千六百貳拾六圓

第一項 營業稅附加稅

金七拾貳萬九千六百貳拾六圓

(本稅壹圓ニ付四拾五錢九厘)

第五款 所得稅附加稅

金貳拾八萬四千六百六拾圓

金貳拾八萬四千六百六拾圓

(本稅壹圓ニ付四錢)

第六款 家屋稅

金貳百九拾貳萬九千五百六拾八圓

第一項 家屋稅

金貳百九拾貳萬九千五百六拾八圓

(郡收入個數一個ニ付壹錢八厘、罹災區域内假建築物個數一個ニ付九厘) (市郡收入個數一個ニ付貳拾參錢貳厘、罹災區域内假建築物個數一個ニ付拾壹錢六厘、特別增課金貳拾五萬六千四百圓)

第七款 戶數割

金參拾五萬九千參百參拾九圓

第一項 戶數割

金參拾五萬九千參百參拾九圓

(郡收入一戶ニ付貳拾壹錢八厘、直接國府縣稅壹圓ニ付七厘八毛)

第八款 都市計畫特別稅

金四拾貳萬貳千六百七拾五圓

第一項 地租附加稅

金拾萬九千五百貳拾四圓

(地租壹圓ニ付拾壹錢七厘)

第二項 營業稅附加稅

金參拾壹萬參千五百五拾壹圓

(本稅壹圓ニ付拾九錢七厘)

第九款 財產收入

金八拾四圓

第一項 不動產收入

金四拾五圓

第二項 動產收入

金參拾九圓

第十款 國庫下渡金

金貳百參拾貳萬六千九百四拾壹圓

(修正)金貳百貳拾八萬五千五百四拾壹圓

第一項 警察費下渡金

金貳百參拾貳萬六千九百四拾壹圓

(修正)金貳百貳拾八萬五千五百四拾壹圓



(修正理由) 警察廳舎建築費ノ修正ニ件フニ由ル(調査委員意見  
委員長大井玄洞)

第二款 雑 收 入 金百拾九萬千八百六拾八圓

第三款 市郡連帶郡部收入額 金貳百八拾八萬參千參百四拾六圓

第一項 市郡連帶郡部收入額 金貳百八拾八萬參千參百四拾六圓

經常部合計金千四百壹萬五千五百八拾四圓

(修正)金千參百九拾七萬千四百九拾壹圓

臨時部

第一款 繰 越 金 金百六萬六千九百九拾六圓

第一項 前年度繰越金 金百六萬六千九百九拾六圓

第二款 國 庫 補助 金 金貳拾參萬四千六百貳拾八圓

第一項 土木費補助金 金貳拾萬六千五百五拾貳圓

第二項 衛生補助費補助金 金百參拾參圓

第三項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金貳萬五百圓

第四項 勸業費補助金 金七千九拾參圓

第五項 勸業補助費補助金 金參百五拾圓

第三款 財 產 賣 拂 代 金參拾圓

第一項 不動產賣拂代 金參拾圓

第四款 國 庫 補 給 金 金五萬參千九拾參圓

第一項 府債費補給金 金五萬參千九拾參圓

第五款 寄 付 金 金壹萬八千圓

第一項 土木費寄付金 金壹萬八千圓

第六款 府 債 金貳百四拾貳萬六千四百七拾六圓

第一項 府 債 金貳百四拾貳萬六千四百七拾六圓

臨時部合計金參百七拾九萬九千貳百貳拾參圓

歳入總計金千七百八拾壹萬四千八百七圓

(修正)金千七百七拾七萬七百拾四圓

歳 出

經 常 部

第一款 警 察 費 金參百四拾九萬七千六拾四圓

第一項 俸 給 及 諸 給 金貳百九拾七萬四千五百貳拾八圓



警部補百四十五人月俸六拾圓此金拾萬四千四百圓 巡查部長二百二十四人月俸五拾七圓此金拾五萬參千貳百拾六圓 巡查二千七百十三人月俸五拾參圓此金百七拾貳萬五千四百六拾八圓 精勤加俸貳萬七千九百六拾圓 書記二十三人月俸五拾參圓六十九人月俸四十八圓此金五萬四千參百七拾貳圓 警察署長警部警部補巡查宿料貳拾七萬參千圓 警察共濟組合給與金四萬貳百貳拾壹圓 其ノ他手當旅費・惠與諸傭給給助

第二項 廳 費 金五拾貳萬貳千五百參拾六圓

(原案説明) 前年度ニ比シ金五拾四萬參百八拾圓ヲ増ス其ノ理由ハ前年決議ニ基ク警部補 巡查四百人ノ増員諸費及無賃乘車證廢止ニ依ル旅費ノ自然増加アルト法令ニ基ク恩給ノ 増加警察分署二箇署開設ニ要スル諸費其ノ他ヲ増スニ由ル

第二款 警察廳舍修繕費 金壹萬貳千貳百八拾貳圓

第一項 修繕費 金壹萬貳千貳百八拾貳圓

第三款 土木費 金九拾萬九千九百七拾參圓

第一項 道路橋梁費 金八拾八萬八千八百拾參圓

第二項 治水堤防費 金貳萬千百六拾圓

第四款 郡役所費 金貳拾八萬六千九百七拾八圓

第一項 俸給及諸給 金貳拾五萬參千六百參拾壹圓

郡書記百三十六人郡視學八人技手三人一人月俸六拾七圓此金拾壹萬八千八百八拾八圓臨時滯納整理吏員四十人月俸六拾圓此金貳萬八千八百圓 雇員三十人月俸參拾八圓此金壹萬七千七百八拾四圓 其ノ他手當雜給旅費給與

第二項 廳費 金參萬參千參百四拾七圓

第五款 郡廳舍修繕費 金貳千五百貳拾圓

第一項 修繕費 金貳千五百貳拾圓

第六款 救育費 金壹萬九千貳百八拾七圓

第一項 救助費 金壹萬九千貳百八拾七圓

第七款 諸達書及揭示諸費 金五拾貳圓

第一項 令達諸費 金五拾貳圓

第八款 勸業費 金八萬八千四百六拾六圓

第一項 農事試驗場費 金五萬八千四百八拾五圓

第二項 勸業諸費 金貳萬九千九百八拾壹圓



第九款 府費取扱費 金參拾萬參千六百九拾六圓

第一項 徵收費 金參拾萬參千參百四拾圓

第二項 滯納處分費 金參百五拾六圓

第十款 神社費 金貳千八圓

第一項 府社費 金貳百四拾八圓

第二項 鄉社費 金千七百六拾圓

第七款 雜出 金八千百圓

第一項 府稅其他過誤納下戻 金八千百圓

第三款 豫備費 金貳萬圓

第一項 豫備費 金貳萬圓

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金九百六拾九萬千六百參拾六圓

(修正)金九百六拾九萬參千貳百參拾六圓

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金九百六拾九萬千六百參拾六圓

(修正)金九百六拾九萬參千貳百參拾六圓

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル(調査委員意見 委員長 平林淺次郎)

經常部合計金千四百八拾四萬貳千六拾貳圓

(修正)金千四百八拾四萬參千六百六拾貳圓

臨時部

第一款 警察廳舍建築費 金四拾五萬七千參百圓

(修正)金參拾八萬八千參百圓

第一項 建築費 金四拾五萬七千參百圓

(修正)金參拾八萬八千參百圓

警察署分署派出所建築費及電話架設費

(附帶決議) 三多摩郡内ニ於ケル巡查駐在所ハ大部分警察電話ノ架設ナク巡查ノ職務執行上不都合ノ事實不尠ニ付豫算ノ範圍内ニ於テ三箇所ノ架設増加ヲ

圖ラレムコトヲ望ム(調査委員意見 委員長 岸忠左衛門)

(修正理由) 警察署敷地代價ヲ適當ト認ムルニ由ル(調査委員意見 委員長 岸忠左衛門)

第二款 土木費 金四拾萬五千五百五拾壹圓

第一項 道路橋梁費 金四拾萬五千五百五拾壹圓

第三款 市町村土木補助費 金九萬五百貳拾九圓